

「自分のあり方」を 見つめる キャリア選択

キャリアの選び方や働き方が多様化する昨今、高校生の進路に対する意識は変化しつつあります。インターネット環境が整った時代に生まれ、SNSを使いこなす今の高校生は、多くの情報にアクセスできる一方、膨大な情報の渦の中、自分の将来を思い描くことが難しくなっている側面もあるかもしれません。将来の夢や目標を見つけなくては、というプレッシャーで動けなくなってしまうたり、焦って視野が狭くなってしまうたり…。

日々、そんな生徒たちと相對する先生方は、どのように進路指導・キャリア教育を行えばいいのか試行錯誤されていることと思います。一昔前と比べて、職業観の変化や進路の多様化に対応することが難しいという声も多く聞かれます。

将来どんな仕事をしたい？ 何をして生きていきたい？ そういった未来の姿を考えるためには、まず「今」の自分を見つめる時間が必要なのではないでしょうか。今の自分が何を大切に感じ、どういう自分でありたいのか。本特集では、高校生が「自分のあり方」を見つめ、自ら進む道を選び取っていくためのサポート方法を考えます。

赤羽佐希子(本誌 デスク)

社会は変わった。 生徒も変わった。 —— 本当に？

「タイプ」重視

動画配信サービスなど、低価格で大量に映像コンテンツを見られる環境が整うに当たって、短時間で満足を得られるかどうか（タイムパフォーマンス）が重視されるようになった。動画の倍速視聴が話題に。

「押し」でつながる

「押し」は自分が好きなものや人、キャラクターのこと。「この人を応援している」ことが自分らしさを表現する一つの要素になっており、同じ押しを応援している人とネット上でつながることも。2021年には新語・流行語大賞に「押し活」がノミネートされる。

カリスマ不在

かつては「憧れのあの人のようになりたい」と憧れの偶像に近づくのがモチベーションの一つだったが、絶対的なカリスマやロールモデルがいないと言われる昨今。「今の自分が少しバージョンアップできるくらいの未来」を思い描く傾向が指摘されている。

知名度より 自分の「価値観」

何かを買うとき、知名度やブランドの有無よりも、コンセプトや開発ストーリーに自分が共感できるか、自分の価値観と合っているかを重視しがち。就職活動の会社選びなどでも似た傾向が見られる。自分が共感を寄せるインフルエンサーの言葉が影響力をもつ。

SNSネイティブ

幼少期からソーシャルメディア（SNS等）が当たり前に残り、SNSを使いこなして情報収集やコミュニケーションを行う。閲覧履歴を基にしたおすすめ（レコメンド）の手法に慣れているので、自らキーワードを入れて検索する行為はあまり得意ではない。

「どう見られるか」が気になる

SNSで情報発信することに慣れているため、周囲からの評価を気にしがち。「いいね」を多くもらえるような発信をする、アプリを使って写真を加工して投稿するなど、ほかの人から良く見られたい傾向がある。その反動からか「SNS疲れ」といった言葉も。

今の高校生は、情報環境が大きく変化した社会における「Z世代」として
これまでとは異なる価値判断や行動の傾向が注目を集めています。
しかし、目の前にいる生徒一人ひとりには本当に語られるような「Z世代」像に
当てはまるのでしょうか？ 実際に、高校生に聞いてみました。

最新・調査結果
から考える

高校生は今、 どう将来を思い描き、 進路選択しているか

情報技術が発達し変化予測の難しい今を生きる、現代の高校生たち。自身の将来や進路については、どのような意識・価値観を持っているのでしょうか。「今と未来」「進学」「仕事」の各テーマについて、小社が数年ごとに実施している「高校生価値意識調査」の最新結果を基に探っていきます。

調査概要「高校生価値意識調査2022」

- 調査目的：高校生の進学や仕事・将来のライフデザインに関する意識・価値観についての実態を把握し、高校生への理解を深めるための一助とする。
 - 調査期間：2022年8月26日(金)～8月30日(火)
 - 調査方法：インターネット調査(パネル「GMOリサーチ」)
 - 調査対象：調査開始時点で高校1～3年生で、卒業後の進路として大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している者(全国)
 - 有効回答数：1,727人
- 分析を行うにあたり、「関東」「東海」「関西」「その他エリア」それぞれにおいて、文部科学省「令和3年度学校基本調査(確定値)」から調査対象の母集団の男女構成比を算出し、回収後の全体に占めるエリアの男女構成比についてウェイトバック集計により補正を行っている。

今と未来

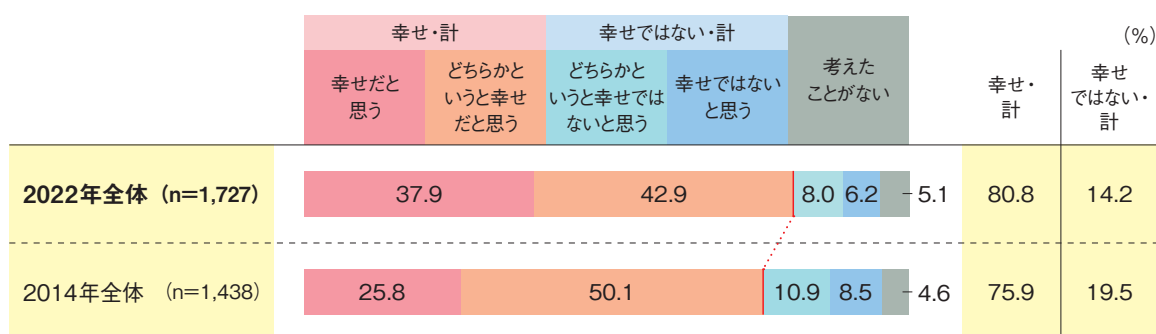
現在「幸せ」という高校生は8割超 強みも弱みも、デジタルの影響大

コロナ禍が続き、ウクライナ戦争や世界的な物価高などが日常生活にも影を落とした2022年。そのなかで自身を「幸せ」と思う高校生は81%と、14年調査時より増えている(図1)。「幸せ」の回答理由からは、「衣食住に困らない」「元気に生きている」など、今ある日常を幸福と感じている様子が見えてくる。一方、「幸せではない」の理由には、時間的・金銭的不自由、学

習や人間関係の困難などが目立つ。また、両方の回答理由に「目標」や「夢」という言葉が散見され、その有無も幸福感を左右するようだ。

自分たちの世代ならではの「強み」については、1位の「インターネット・SNS」22%をはじめ、デジタル社会を反映する回答が上位(図2)。「弱み」については「コミュニケーション・会話が下手」10%、「SNS・インターネット依存」6%などデジタル化の負の影響といえる内容が目立つ(図3)。「ゆとり教育」が多かった10年前とは異なる。

図1 現在の幸福感 (全体/単一回答)



【フリーコメント】 幸福感に対する回答の理由

- 幸せ**
- 衣食住に困らないから。夢を持つことができるから (1年・男子)
 - やりたいことに熱中できているから (1年・男子)
 - 元気に生きているから (1年・女子)
 - 将来の目標があるし、つらいときがあっても話せる友人がいるから。 (2年・女子)
 - 不自由のない生活だから (2年・男子)
 - 家族がいて友達がいるから (2年・女子)
 - 戦争がない国に住んでいるから (3年・女子)
 - 好きな志望校を目指せる (3年・男子)

- 幸せではない**
- 学校がつまらない (1年・男子)
 - まだ、ちゃんとこれだという夢、達成したいものが決まっていないから (1年・女子)
 - 勉強が難しいと感じてるから (1年・男子)
 - 生活がカツカツだから (2年・女子)
 - やることが多く、息が詰まるから (2年・女子)
 - 少しコミュニケーションが心配で、たまに疎外感を感じるから (2年・男子)
 - 受験、家族、友人関係のストレス (3年・女子)
 - 将来が見えない不安があるから (3年・男子)

「自分の将来が明るい」は7割強 友人・家族を大切にしていきたい

では、将来についてはどう考えているか。まず、「目標がある」という高校生は76%と多数を占める(図4)。「自分の将来が明るい・計」は71%で、14年より増加(図5)。また、目標が明確にある人ほど、自分の将来を明るいと感じる傾向がある(図6)。

将来についてのさまざまな考え方のうち、最

も多いのは「友人はずっと大切にしていきたい」82%、次が「家族はずっと大切にしていきたい」79%と、身近な人と共に生きていくことを重視しているようだ(図7)。14年から最も増えているのは「いい大学やいい会社に入れば将来は安泰だと思う」で、“所属”に頼る傾向がうかがえる。「誰かの役に立てる生き方をしたい」「お金を稼ぐより他人から尊敬・感謝される大人になりたい」などの増加からは、他者への貢献意識の高まりが見える。

図2 自分たちの世代ならではの「強み」・上位5項目 (自由回答)

2012年調査 (n=1,329)			2022年調査 (n=1,727)		
1位	IT・情報化社会・デジタルに強い	11.6%	1位	インターネット・SNS	22.0%
2位	若さ	5.4%	2位	IT・情報化社会・デジタルに強い	15.6%
3位	インターネット・ネット	3.3%	3位	情報の収集力・伝達力	5.8%
4位	柔軟性	2.3%	4位	諦めない・我慢強い・忍耐力	3.3%
5位	発想力	2.2%		世界的出来事(コロナ)	3.3%
	自由がある	2.2%			
	ポストバブル・不況・不景気の経験	2.2%			

図3 自分たちの世代ならではの「弱み」・上位5項目 (自由回答)

2012年調査 (n=1,329)			2022年調査 (n=1,727)		
1位	ゆとり・ゆとり教育・ゆとり教育世代	25.0%	1位	コミュニケーション・会話が下手	9.7%
2位	学力・学習不足・知識不足・頭が悪い	8.6%	2位	SNS・インターネット依存	5.8%
3位	諦めやすい・我慢できない・忍耐力(がない)	3.5%	3位	経験不足(人生・社会)	4.7%
4位	打たれ弱い	3.4%	4位	コロナ影響	4.4%
5位	コミュニケーション・会話が下手	2.8%		読み書き・活字離れ・語彙力	4.4%

図4 「目標」としていることの有無 (全体/単一回答)

	目標あり・計		目標なし・考えたことがない・計		目標あり・計 (%)	目標なし・考えたことがない・計 (%)
	目標としていることがある	ある程度、目標としていることがある	考えたことはあるが、目標はまだない	考えたことがない		
2022年全体 (n=1,727)	46.1	30.1	18.1	5.8	76.2	23.8

図5 「自分の将来」の明るさ (全体/単一回答)

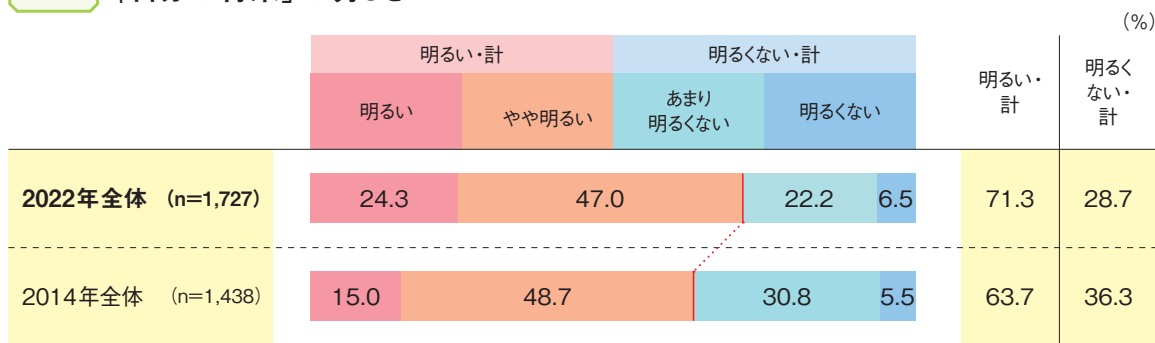


図6 「自分の将来」の明るさ【目標としていることの有無別】 (全体/単一回答)

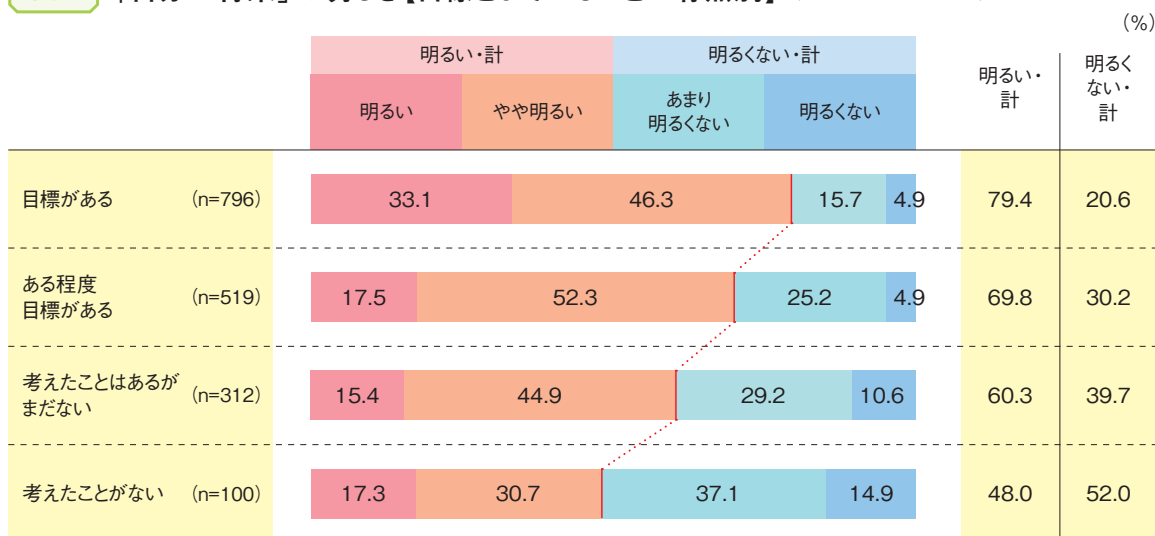
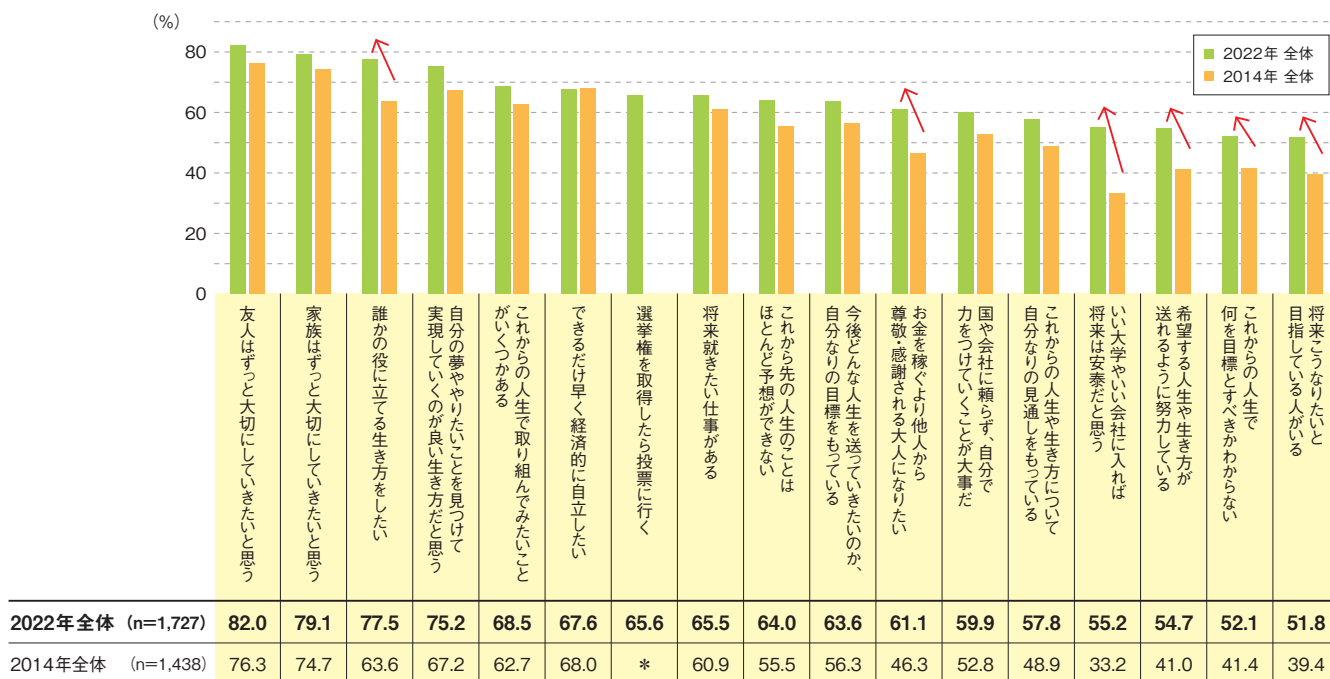


図7 将来観 (全体/各単一回答「あてはまる・計」のスコア)



※「2022年全体」の降順にソート/上位17項目を抜粋/数値欄の*は該当年の調査なし

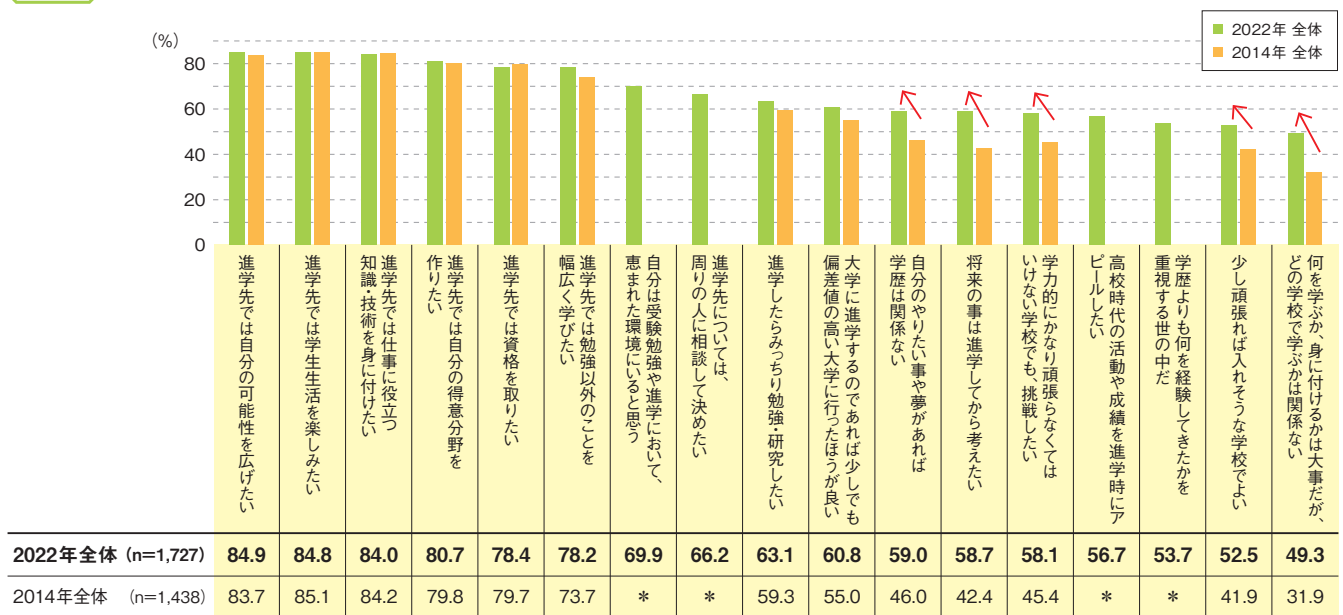
進学

進学に対し幅広い期待感 「学歴よりやりたい事」が増加

まず、進学に関するさまざまな考え方についての質問では、「自分の可能性を広げたい」85

%、「学生生活を楽しみたい」85%、「仕事に役立つ知識・技術を身に付けたい」84%など、多様な項目が8割を超える(図8)。進学に対し、勉強以外にも幅広い期待感をもっているようだ。14年と比べると、上位項目に大きな変動はない

図8 進学観 (全体/各単一回答「あてはまる・計」のスコア)



※「2022年全体」の降順にソート/進学に関する上位17項目を抜粋/数値欄の*は該当年の調査なし

解説 進学や将来に対する考え方タイプの特徴

将来や進学に関する質問への回答を基に8つのタイプに分類

プロ突進タイプ

なりたい自分に向けてあれこれ楽しみながら、成功をつかみたい

自分の夢・興味を仕事にして、大きな成功や出世、富などのステータスを得ることを重視。進学後の学生生活を謳歌したい気持ちも強い。

自分探タイプ

まずは進学することが目標。将来はこれから考えていけばいい

進学して勉強することへの意欲はある程度うかがえるが、将来の仕事や生き方についてはまだ具体的な希望がもてずにいる。

ブランド重視タイプ

偏差値の高い学校に入って出世や富を手にしたい

有名企業への就職や出世・富などのステータスを重視。真面目に勉強することや、自分の夢・興味を仕事にすることはあまり重視していない。

未成熟タイプ

夢はなく、勉強は嫌い。とりあえず進学しよう

叶えたい夢があるわけではない、勉強への意欲が低く、進学後にやりたいことも明確でないが、進学は希望している。

おっとりタイプ

夢はあるが高望みはしない。そこそこ楽しく生活できれば満足

進学後は学生生活を謳歌し、将来は夢・興味を仕事にすることを希望。しかし、高望みせず適度に楽しく生活することを重視し、地位上昇志向は低い。

学者タイプ

コツコツ勉強して得意分野をつくりその道の専門家に

進学して真面目に勉強することや、仕事に役立つ知識・技術を身につけることに意欲的。その先に、夢の実現や大きな成功を思い描いている。

好きエンジョイタイプ

進学して自分の可能性を広げ、好きなことを仕事にしたい

進学先で自分の可能性を広げることに意欲的で、自分の夢・興味を仕事にすることを重視。地位上昇志向は低い、楽しく充実した生活を希望している。

就職タイプ

進学する必要性は感じない。仕事をもって収入を得たい

進学して学ぶこと、学生生活を楽しむことに対して関心が低い。自分の夢や興味を大切に仕事に就くことや、収入を得ることには前向き。



が、10位以降では「自分のやりたい事や夢があれば学歴は関係ない」や「何を学ぶか、身に付けるかは大事だが、どの学校で学ぶかは関係ない」の大幅な増加が目立ち、学歴や学校より“やりたい事”を重視する方向性がうかがえる。

なりたい自分に向け努力する「プロ突進タイプ」が増加

将来や進学に関する考え方への反応を基に、高校生を8つのタイプ（進学観タイプ）に分類した（解説）。その構成比が最も高いのは、なりたい自分に向けて努力する「プロ突進タイプ」で、全体の32%を占める（図9）。次いで、将来は進学してから考えたい「自分探しタイプ」18%、偏差値で大学を選ぶ傾向が強い「ブランド重視タイプ」13%、夢はなく勉強も嫌いだがりあえず進学しようという「未成熟タイプ」12%が高い。14年と比較すると「プロ突

進タイプ」の増加が目立つ（25%→32%）。

これを在籍校の大学・短大進学率別に見ると、【進学率95%以上】には「プロ突進タイプ」や「ブランド重視タイプ」が比較的多く、【進学率40%未満】には「プロ突進タイプ」がやや少ない（図10）。とはいえ、どの属性にも多様なタイプがいることは留意しておきたい。

クロス集計を用いて、進学観タイプの特徴をもう少し詳しく探してみよう。まず、目標の有無とのクロス集計を見ると、「目標あり・計」の比率が【学者タイプ】は93%、【プロ突進タイプ】は84%と高いのに対し、【未成熟タイプ】は50%と低く、タイプによって大きな差がある（図11）。

また、現在の幸福感とのクロス集計では、【プロ突進タイプ】と【おっとりタイプ】は「幸せ・計」が87%前後と高い一方で、【未成熟タイプ】は58%と低い（図12）。

自分自身の将来の明るさとのクロス集計で

図9 進学観タイプの分布（全体／クラスター分析によるタイプ分類）

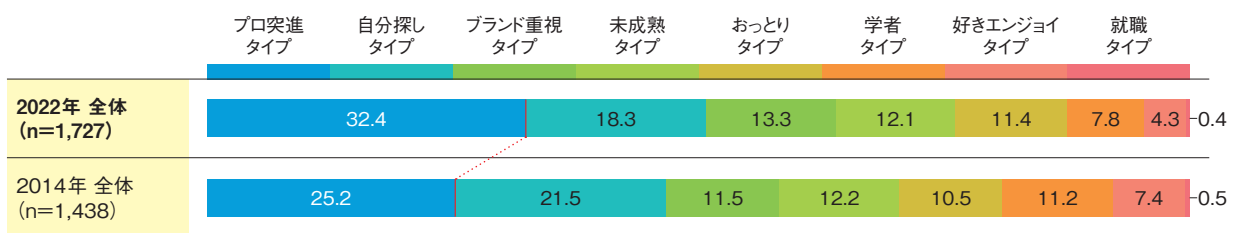
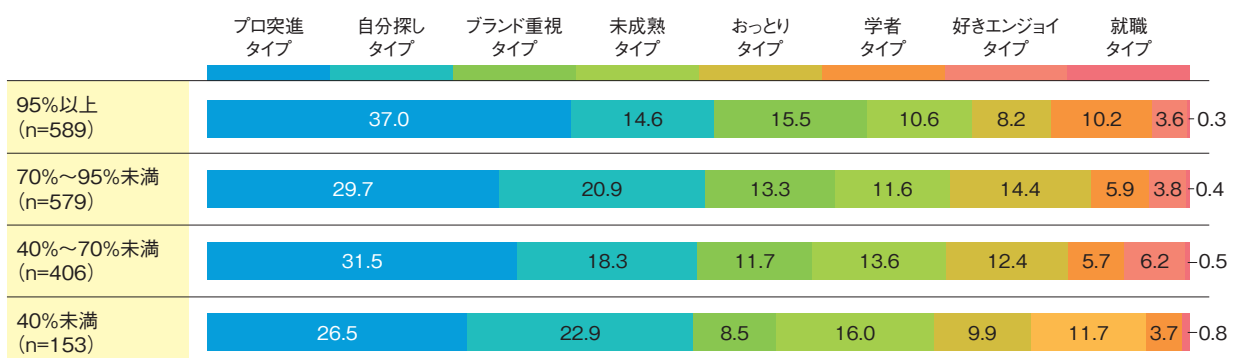


図10 進学観タイプの分布【在籍校の大学・短大進学率別】（全体／クラスター分析によるタイプ分類）



は、【プロ突進タイプ】は「明るい・計」が80%だが、【未成熟タイプ】は52%、【就職タイプ】は42%にとどまる(図13)。

幸福感や将来の明るさを感じている【プロ突進タイプ】が図9で見たように増加しているこ

とは、進路指導やキャリア教育を行う教員にとっては良い傾向といえそうだ。ただし、【未成熟タイプ】のように、目標をもてず幸福感や将来の明るさを感じにくい層への目配りや支援は欠かせない。

図11 「目標」としていることの有無【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

		目標としていることがある	ある程度、目標としていることがある	考えたことはあるが、目標はまだない	考えたことがない
全体	(n=1,727)	46.1	30.1	18.1	5.8
プロ突進タイプ	(n=559)	57.0	27.4	13.3	2.4
自分探しタイプ	(n=316)	34.4	38.4	22.2	5.0
ブランド重視タイプ	(n=229)	42.1	29.6	23.7	4.6
未成熟タイプ	(n=209)	26.1	24.3	25.2	24.2
おっとりタイプ	(n=197)	42.9	35.2	18.8	3.1
学者タイプ	(n=135)	68.4	24.7	6.0	0.9
好きエンジョイタイプ	(n=74)	52.2	28.6	16.3	2.9
就職タイプ	(n=7)	32.9	24.8	42.3	

図12 現在の幸福感【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

		幸せだと思う	どちらかという幸せだと思う	どちらかという幸せではないと思う	幸せではないと思う	考えたことがない
全体	(n=1,727)	37.9	42.9	8.0	6.2	5.1
プロ突進タイプ	(n=559)	49.2	38.0	5.7	3.7	3.3
自分探しタイプ	(n=316)	26.8	52.9	7.6	6.9	5.8
ブランド重視タイプ	(n=229)	42.8	40.3	8.6	7.0	1.4
未成熟タイプ	(n=209)	21.1	36.6	13.4	10.1	18.8
おっとりタイプ	(n=197)	41.0	45.8	7.3	4.4	1.4
学者タイプ	(n=135)	38.1	42.8	8.5	8.0	2.6
好きエンジョイタイプ	(n=74)	24.5	54.9	10.0	8.1	2.5
就職タイプ	(n=7)	29.0	43.5	12.6	14.9	

図13 「自分の将来」の明るさ【進学観タイプ別】(全体/単一回答)

		明るい	やや明るい	あまり明るくない	明るくない
全体	(n=1,727)	24.3	47.0	22.2	6.5
プロ突進タイプ	(n=559)	36.5	43.7	15.1	4.7
自分探しタイプ	(n=316)	11.8	54.4	27.6	6.2
ブランド重視タイプ	(n=229)	22.8	50.9	21.6	4.7
未成熟タイプ	(n=209)	16.9	35.4	35.7	12.0
おっとりタイプ	(n=197)	19.2	53.1	19.5	8.2
学者タイプ	(n=135)	27.8	48.3	18.4	5.6
好きエンジョイタイプ	(n=74)	18.3	45.0	30.1	6.7
就職タイプ	(n=7)	25.1	16.5	27.1	31.3

仕事

仕事には金銭面だけでなく 自分の幸せ、やりがいも重要

将来、仕事をもって働く目的についてはどう考えているか。最も多いのは「金銭的に豊かな生活をするため」57%で、「自分自身の幸せ」47%、「やりたいことの実現」46%なども半数近く回答している(図14)。

また、「いい仕事」とはどのような仕事をイメージしているかについては、最多は「収入が高い」59%で、「やりがいを感じられる」47%、「安定している」45%が続く(図15)。

これらの質問の最多項目からは、社会の経済的な不安を反映してか金銭的安定への期待感がうかがえる。しかし、ほかに多様な回答も

あがっていることから、仕事をするうえで重要なのは金銭面だけではないようだ。

“自分”を大切にしながら “安定”と“自由”を求める傾向

就職・仕事のさまざまな考え方について、当てはまるものの回答が50%を超えた項目を抜粋して、種類別にグラフにした(図16)。まず、仕事内容に関する項目を見ると、最も多いのは「自分がやりたくない・自分に合わない仕事はしたくない」84%、次が「自分が成長できる仕事がしたい」81%と、“自分”を軸にした考え方が上位に並ぶ。14年との比較では、「身近な人の役に立つ仕事がしたい」「社会貢献ができる仕事がしたい」など他者への貢献や、「仲

図14 将来「仕事をして働く」目的・上位5項目 (全体／複数回答)

1位	金銭的に豊かな生活をするため	57.1%
2位	自分自身の幸せのため	46.8%
3位	やりたいことを実現するため	46.3%
4位	人の役に立つため	37.0%
5位	家族を養うため	27.4%

図15 「いい仕事」のイメージ・上位5項目 (全体／複数回答)

1位	収入が高い	58.8%
2位	やりがいを感じられる	47.4%
3位	失業する可能性が低く、安定している	45.4%
4位	人気のある職種・会社である	24.0%
5位	人に自慢できる	23.4%

間と作り上げる仕事をしたい」「チームで働ける仕事をしたい」など協働に関する項目が増加している。

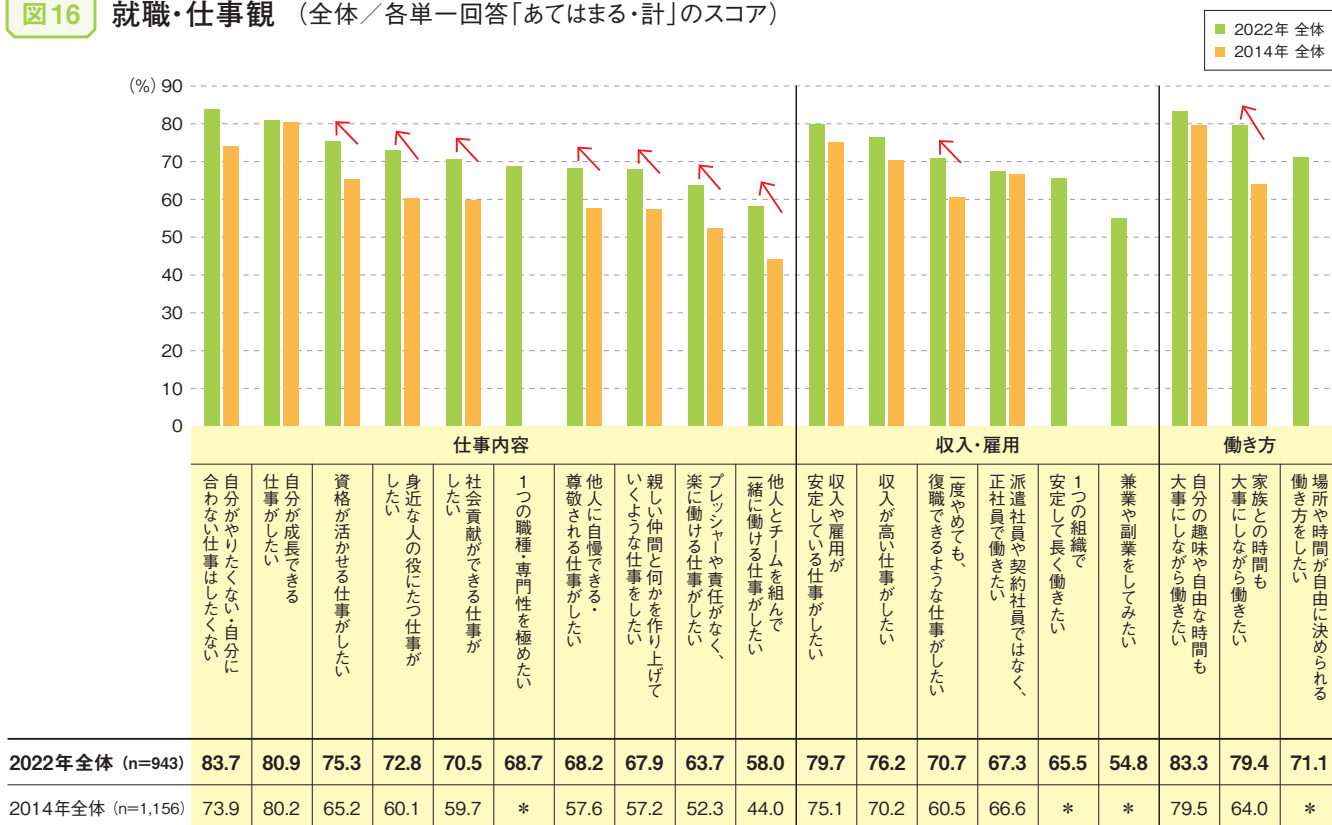
収入・雇用に関する項目のなかでは「収入や雇用が安定している仕事をしたい」80%が最も多い。14年と比べると、「一度やめても、復職できるような仕事をしたい」が増加。“安定”を一層重視する傾向が見える。

働き方に関する項目のなかで最多は「自分の時間も大事にして働きたい」83%だ。ほか、「家族との時間も大事にして働きたい」79%、「場所や時間が自由に決められる働き方をしたい」71%なども多く、時間や場所に縛られない“自由”を求める様子が見える。

今回の結果からは、わずか10年足らずの間にも、高校生の意識・価値観が確実に変化していることが見えてきた。特に、夢や目標をもつことやそれを実現させることなど、“自分”をより重視する傾向がさまざまところで浮き彫りになったのが、大きな特徴だ。

高校生の意識・価値観の変化には、社会環境の変化のほか、各校の探究活動やキャリア教育の充実を反映している可能性がある。今後、多様な高校生の意識・価値観の理解を基に、一人ひとりの明るい将来に向けた支援の一層の充実が期待されている。

図16 就職・仕事観（全体／各単一回答「あてはまる・計」のスコア）



※設問の種類別に降順ソート／スコアが50%以上のみ抜粋／数値欄の*は該当年の調査なし

大切にしたい価値観や、 ありたい姿から考える 進路選択



高校生価値意識調査(3~11ページ)からは今の高校生の価値観が浮かび上がってきました。その結果を踏まえつつ、数字からは見えない高校生の実態について、NPOや教育行政の立場で現場に関わるカタリバの菅野祐太さんと、全国の高校生と協働しながらメディアづくりをするスタディサプリー進路の仲井美夏編集長に語っていただきました。

——進路選択のあり方について語っていただく前に、まずは自己紹介を兼ね、ご自身のキャリアを教えてください。菅野さんは、教育支援で知られるNPOカタリバからの出向という形で岩手県大槌町の教育委員会に籍を置き、大槌高校にも常駐されているそうですね。

菅野 はい。小学校の先生を志望した時期もありましたが、社会人としてのスタートは東京の企業でした。社会を広く知るために、まず企業人という立場から、と思ひまして。転機は東日本大震災。仕事をしていても、大事な問題を忘れていたような感覚に襲われて手がつかず、無理を言ってつくってもらった休職制度を利用して大槌町へ行きました。カタリバが計画していた放課後学校設立の手伝いをするためです。翌年復職するも、現地のことが頭から離れず、カタリバに転職し、大槌町へ移住。被災地で貧困などの課題に直面したこ

とで教育行政に関わるようになり、学校教育に疑問をもったことで今は高校に常駐しています。それぞれの現場で見つけた課題を解決したい一心で、動き続けているイメージです。

仲井 スタディサプリーの進路に関連する部署で『スタサブ進学マガジン』という雑誌をはじめ、高校生向けの多様なコンテンツを制作しています。多くの高校生にインタビューし、進路以外にも、家族観とか鞆やスマホの中味リサーチなど身近な話題も提供しています。私も転職を2度経験し、最初は編集プロダクションで働いていました。昔から自我が強く、話すことが好きでしたが、逆に聞くことや書くこと中心の仕事がしたかったんです。その後、数字で評価される世界も経験したくなり、まるで違う業界に飛び込みました。数年在籍して結果を出したタイミングで、次の活躍の場を求めた先が今の会社です。



「やりたいことは？」と 問われ続けるプレッシャー

——お二人とも、その時々課題意識によって働く舞台を変えてきたのですね。高校生価値意識調査では、早くにやりたいことを決め、夢や興味を仕事にして成功を目指す“プロ突進タイプ”の増加が顕著でした(8ページ)。頼もしくもありますが、生の声を聞くと、焦りやプレッシャーから「やりたいことはコレ」と自分に言い聞かせている高校生の姿も浮かんできます。「在学中、先生に聞かれて嫌だった言葉」として、「夢は？ やりたいことは？」が上位にくるとい話もあり、圧を感じている高校生も多いのではないのでしょうか？

仲井 やりたいことが見つかった子はいいい

ですが、そうでないとプレッシャーですよ。少し前にあった「好きなことで、生きていく」というYouTubeのCMコピーが典型的ですが、なんとなく一部の若い人の間に、「やっぱ、夢とかやりたいことがないとマズいよな」という強迫観念であったり、それで生きていくことが美德、みたいな世界観ができていているように感じます。

菅野 小さいころから「何になりたい？」と聞かれ続けてきた反動で、思春期になり「別にやりたいこととかないし」と反発する子もいます。でも心の中では焦りを感じていて、進路選択ギリギリのタイミングで、「これでいいや」と決めてしまう。「就職しやすそうだから」「聞いたことのある大学だから」「みんなが行くから」といった理由で、です。

一方で、公認会計士などの専門職を早くか

他者との違いを意識したとき、
ありたい自分が浮かび上がる

「こんな風になりたい」。そう
思い描く理想の姿がありたい自分

認定特定非営利活動法人
カタリバ
大槌町教育専門官
菅野祐太さん

スタディサプリ進路
編集長
仲井美夏さん

なかい・みか 編集プロダクション、テレビ通販会社を経て、2013年リクルート入社。2017年スタディサプリ編集部配属。「いつも高校生の味方となり伴走し続ける」をコンセプトに「スタサブ進学マガジン」(年8回発行)をリニューアル。全国3000人以上のスタサブ高校生エディター組織を立ち上げる。進学マガジンに加え、アプリ「スタディサプリfor SCHOOL」、Webサイト「#高校生なう」、メルマガ、SNSを通じて進路や高校生ライフに関する多彩なコンテンツを発信。

ら目指す目的意識の強い生徒も増えています。思うに、学習指導要領をはじめ、至るところで「変化の激しい時代」「正解はない」と言われますよね。そう言われ続けたら不安になり、少しでも確実性の高いものにすがりたくなる気持ちはわかります。

仲井 目標を早く決めないと、進学にしる就職にしる行動しにくい現実があります。ただ、高校生が、頭の中だけで、やりたいことを見つけるのは難しい。なので、迷っている高校生には「まずは経験してみよう。やってみないと好きかどうかもわかんない」と伝えたいです。

——「本音で相談できる相手がおらず、孤独を感じる」という声も聞きます。

仲井 進路について友達に話しづらい、というのはよく聞く話。「そんな夢、無理に決まってるじゃん」って思われたら嫌だとか。身近な存在だからこそ、話せないことって多いですよね。

菅野 その観点はカタリバもとても大切にしています。活動の原点になっています。親しい関係性において自分をさらけ出すことは難しい。そうしたヨコの関係でも、親や先生などのタテの関係でもなく、利害関係のない少し年上の先輩との“ナナメの関係”であれば素直になれるのではという考えです。

私はワークショップの場でよく、「自分だけが疑問や違和感をもっていると思うことは？」と聞くことがあります。もちろん関係構築ができている安全な場であることが前提ですが。すると例えば「夜、寝るのが不安」などの発言が

一つひとつの選択の積み重ねによって、あなたはつくられているんだと伝えたい



認定特定非営利活動法人カタリバ
大槌町教育専門官

菅野祐太さん

かんの・ゆうた ● 早稲田大学教育学部卒業後リクルートエージェント（現リクルートキャリア）入社。東日本大震災を機に退職し、NPOカタリバが運営する「コラボ・スクール大槌臨学舎」の立ち上げに従事。一時復職するも2013年カタリバに転職し、大槌臨学舎の統括担当に。2017年大槌町教育委員会に出向。2019年よりカリキュラム開発等専門家として大槌高校に常駐。マイプロジェクト、ルールメイキングプロジェクトにも関わる。文部科学省コミュニティ・スクールの在り方等に関する検討会議委員。



出てきます。「話してくれてありがとう。では、同じことを気にしてた人は？」と聞くと何人も手が上がります。自分だけが悩んでいたわけではないことがわかり、少しほっとした表情をします。そこで、こう付け加えます。「みんなも悩んでいるってことは、あなたはその悩みの代表。それについて探究を深めれば、社会課題を解決することに繋がるかもしれないよ」と。

世代で一括りにせず 環境と人柄を分けて考える

——仲井さんはZ世代と呼ばれる今の高校生の特徴をどう捉えていますか？

仲井 編集部では「人生相談したい有名人ランキング」といったカジュアルなテーマを含め、毎月千人規模のアンケートを実施しています。でもニュースの見出しになるような尖ったコメントは少数で、地に足の着いた回答がほとんどです。また、記事制作に協力してくれる3千人の高校生エディターに、どのような協力が可能か登録時に聞くのですが、誌面に登場したい高校生は2割もいなく、アンケート協力でこっそり参加したい、という子が最も多いんです。友達の日を気にしているのかもしれませんがね。

菅野 カタリバの活動でも「友達に真面目とか意識高いと思われたくない」という発言はよく聞きます。関係性の中での自分の立ち位置が気になるのです。昔から同調圧力ってありましたが、今はSNSなどを通じて学校の外でも繋がっている状態なので、人間関係に苦慮する

あなただけがもつ視点を大切に、
社会との対話をし続けてほしい

生徒は多いと感じます。

仲井 趣味垢、リア垢、ROM垢など複数のアカウントでキャラを使いわけるとSNSをうまく活用している子はいます。ただSNSのタイプによってはネガティブな情報が流れやすいものもあり、よくない影響を受けやすい面も確かにあるかなと。記事でメンタルコントロールを取り上げたときは、読者からの反響が多くて驚きました。

あと、デジタルネイティブと呼ばれるだけあって画面から情報を得るスキルは本当に高い。例えば、ウェブオープンキャンパスの視聴中、動画配信を準備する教職員のふとした会話から仲の良さや校風を感じとったり、スライドのフォントの大きさなどから自分たち高校生への配慮を汲み取ったりと、大人がリアルな場で感じることを、ネット上でキャッチしているわけです。

こうしたZ世代特有の環境はありますが、メディアで喧伝されるような問題意識が高く社交的な高校生は、ごく一部の目立つ層。なので世代で一括りにせず、これまで通り、対一の関係で接し、こちらの思いも素直に伝えることが大切だと思います。むしろ、思いを汲み取る力は、総じて強いので。

菅野 学校でも「この学年は」など一括りにする言葉を使いがちですね。そういう空気が強い組織では、個が集団に埋没しがち。なのでカタリバが実施するマイプロジェクトという探究学習では、文字通り“マイ”を大切にしています。「あなたにしかない感性」や「あなただから感じる違和感」を大切にすることで探究は深まり、自分自身を見つめ直すことにもなりますから。

私がそれを強く意識するようになったのは被災地での生徒の振る舞いでした。マイクを向

けられたら「絆」、将来の夢は、という質問には「復興に貢献したい」が求められる答え。マイプロジェクトのテーマも、大人の願いが投影されたようなものが少なくありませんでした。でも聞くと本音は別のところにあるんです。絆という言葉が大嫌いと言った生徒もいました。これはマズい。もっと自分を出していいんだよ、と語りかける必要があると感じました。

先生の言葉の重みと 選択することの重要性

——そうした高校生と接するうえで気をつけていることはありますか？

仲井 高校生にとって大人は、強い影響力をもっています。大人の何気ない発言や態度によって、言いたいことも言えなくなってしまう。なので私は、聞くことを大切にしています。自分を知らうとしてくれない大人に、どんな言葉をかけられても響きはしませんから。

＼ PICK UP /

カタリバの主な活動

●出張授業カタリ場

全国の高校生を対象に、学生のボランティアスタッフが中心となって約2時間本音で語り合う授業。ナナメの関係と呼ばれる大学生や社会人との対話や出会いを通して、価値観に気づいたり、新たな自分を発見したり、探究したいテーマを設定したりする。(2020年以降、新型コロナ感染拡大防止のため新規受付を休止中)

●全国高校生マイプロジェクト

身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ実践型探究学習プログラム。小さくても実際に行動を起こすアクションや、主体性を重視。カタリバ主催で毎年、「全国高校生マイプロジェクトアワード」を開催。

●みんなのルールメイキングプロジェクト

校則やルールに対して、生徒が主体となり、関係者との対話を重ね納得解をつくることを通して、課題発見、合意形成、意思決定する力を高める。2019年に2校から始まった取組だが、社会的な関心が高まり全国に広がる。経済産業省「未来の教室」実証事業。

菅野 完璧に見えるロールモデルに高校生は親近感をもちにくい。「この人にも失敗や苦労があって、今があるんだな」と知って初めて憧れは生じます。だからこそカタリバの活動で高校生と話す際には、挫折も含めた等身大の自分を高校生にぶつけます。学校の先生は構造上、正しいことを言うべきという立場になってしまいがちなので、もっとカッコ悪い部分を見せてもいいのではと感じます。

仲井 先生の影響力和いえば、最近知ったことがあります。私は中高一貫校育ちで、そのまま系列の大学に上がるのが自然な進路だったんですが、「10年間同じ学校にいるってどうなのか」と疑問を抱き、他大学を受験したんです。猛反対していた親が受験を認めてくれたのは高3の11月でした。先日、父に「あれだけ反対してたのに、なぜ急に認めてくれたの？」と聞いたところ、「担任の先生に、『このままだと娘さんに一生恨まれますよ』と言われたから」と。それを聞いてまず感じたのは、先生の言葉って重みがあるんだなということ。そして、「あの先生、私の味方になってくれてたんだ」ということ。当時は「この先生、人に興味があるのかな」と思っただけに、胸に刺さりました。

菅野 私の転機も高校時代でした。「進学校な

んだし、部活なんてほどほどにやればいいんだよ」という空気が支配的ななか、「違うだろ。みんなで決めたんだからしっかりやろう」と口にできた体験です。ベンチ要員だった私に、顧問が「菅野、お前はと思うんだ」と投げかけてくれたことがきっかけでした。その結果、新たに主将になり目標としていた大会に出場することができました。そうした経験から、他者とは違う自分の存在に気づけたことが、その後のさまざまな選択の場面において、「自分はこう思う」と自信をもてる基盤になっています。

仲井 自分で決めた事実があれば、他責になりませんよね。実は私の他大学受験はうまくいかず、結局内部推薦で進学したのですが、充実した学生生活を送れたのは、自分がした選択の結果だったからです。もしそうでなければ、うまくいかないことがあるたび「あの時こうだったら!」とタラレバで考えてしまっていたかもしれません。大切なのは、自分で選択したという事実。なので、もし生徒が、首を傾げなくなる選択をしたとしても、頭ごなしに否定しないことと、「そうした選択の積み重ねによって、あなたはつくられているんだよ」って伝えることも大切だと思います。

菅野 選択が正しいかどうかなど、わかりませ



高校生向けメディアをつくるスタサブ編集部メンバーは30代がメイン。高校生のトレンドを知るため、例えば最新のプリントシール機を編集メンバーと体験することも。「顔のデフォルト加工やプリ機のデザインからビジュアルのヒントを得て誌面のデザインに活かしています」と仲井編集長。受験期はメンバーの皆と合格祈願へ。(写真上)

んからね。話は少し飛びますが、岩手県の高校には校歌・応援歌練習という伝統があります。先輩の厳しい指導の下、喉が枯れるまで全員で歌うのですが、ある生徒から、活動の見直しが提案されました。検討委員会において廃止を求める意見が多数を占めるなか、最終的な決断は、「校歌の練習は残す。けれど厳しい指導は行わない」に。どんな経緯があったかという、発議者の生徒が校歌の意義を改めて調べたところ、熊本地震の際にコミュニティラジオで校歌のリクエストが多くあったことを知り、「自分にとっては否定的に感じられることが、誰かの心の支えになることもある」と気づきます。議論に新たな視点が生まれたのです。このエピソードを今回の対談のテーマに合わせると、こうでしょうか。社会では、「自分はこうしたい、だからあなたも認めてよ」とはいきません。自分はこうしたいけど、違う考えをもつ人もいる。では改めて自分はどうすべきか。その視点をもったとき、自分のありたい姿が浮かび上がると思うのです。なので社会と自分との視点の行き来がとても重要。マイプロジェクトも、周りの人との違いをぶつける体験を通じて、自分がどういう存在かを問う機会でもあるんです。

自己に対する理解や気づきで 浮かび上がる、ありたい姿

——今までのお話から、目標を見つけることも重要ですが、自分はどうありたいのかなど、内面を見つめ直すことが、進路指導では大切だと感じました。

仲井 そう思います。ただ、「どうありたいか」というストレートな問いは高校生には高尚過ぎる

のでは。大学生でも就活中、延々と「自分探し」をしてる人がいますが、あの迷路に入ってしまうそう。そもそも、問われると、答えをつくらなきゃって思考になると思います。

菅野 確かに「やりたいことは？」の圧に代わり、「どうありたいか？」という新たな圧にしてはいけません。私としては先ほど話したことに加え、「自分はどういうときに喜び、違和感を覚えるか」ということを認識したり、「他者と違う視点をもっていていいんだ」と納得したりする。その時点で、ありたい姿が見え始めている気がします。

仲井 どんな人にも、自分の内側に受け容れ難い部分があると思うんです。考え方だったり、振る舞いだったり。本人がそれを変えたいと思っていて、こう変わりたいと思いつく理想像があるとしたら、それがありたい自分ではないでしょうか。そうした気づきを促すコミュニケーションが大事だと思います。

菅野 そう考えると、よく聞く「今のあなたでいいんだよ」というフレーズは使い方に気をつけないといけませんね。今日までのあなたは肯定していても、そこから変わっていかうとするあなたまでは対象にしていませんから。言葉狩りになってはいけませんが、私個人は、変わろうとするあなたも、肯定する必要があると思っています。

仲井 確かにそうですね。最後、高校生には改めて、「将来について考えを巡らすことは大切だけど、行動あってこそ考えは深まる」と伝えたいです。まずは、動き、少しだけ外の世界に触れてみる。そうすることで自己理解の解像度を上げ、本当の「やりたいこと」を見つけてほしいし、それが変わっていく過程も含めて人生を楽しんでほしいです。

高校時代、 何を大切にしてい いたか？

高校生自身は自分をどうとらえているのでしょうか。
高校を卒業して間もない元高校生たちに、18歳の自分をつくったもの、
進路選択のきっかけなど、データだけでは見えない
等身大の高校時代について語ってもらいました。

取材・文／長島佳子
撮影／阿部健一（19ページ）、竹田宗司（22ページ）、吉永智彦（25ページ）

公立高校→就職+専門学校通信課程

※2023年3月卒業

飽きっぽい自分がのめり込んだ美容師の世界で、 新しいことをやってみたい！

鹿追高校(北海道・道立)卒 遠藤翔太さん

Q 将来の夢は？
美容師になって自分の
理想の店をつくること

Q 高校卒業後の進路は？
高校から続けてきた
通信制の美容学校で学びながら
美容室で働き始めます

Q どんな自分でありたい？
性格は熱しやすく冷めやすい
いろんなことをどんどん取り入れて、
頼られる存在でありたい

Q 夢と出会ったきっかけは？
母が美容師だったことと、子どものころから
おしゃれが好きだったこと

Q 友達とはどんな話をしていた？
YouTubeのネタとか。進路の相談もしていた

Q 高校時代にがんばったことは？
美容室とコンビニでのバイト。コンビニでは
バイトリーダーも務めた

Q 情報収集の手段は？
主にInstagram。スマホよりも家のパソコン
で見ることが多い

Q 進路選択で大事にしたことは？
やりたいことが明確だったので、早く一人
前になる方法考えた

人をキレイにして喜ばれる美容師が中学生からの夢

なりたい職業は中学校のときから美容師ひとすじ。自分のくせ毛や髪色が薄い悩みに、美容師である母がプロとしての的確に改善してくれていて、興味をもったのです。髪だけでなく小学生のころからおしゃれ全般が大好き。ジャニーズの菊池風磨くんのファッションにあこがれて、髪形とか服装を真似したり。中学生になって私服を着る機会が減って、ますますおしゃれへの関心が深まりました。

性格は飽きっぽいです。絵を描いたりマンガを読んだり、好きなことを見つけては一気に集中してやってみるんだけど、一通りできたりわかったりすると飽きてしまう。でも、唯一飽きなかったのが美容やおしゃれに関することでした。絵などの創作物は完成すると変化しませんが、髪って美容室で完成しても気候などですぐ変

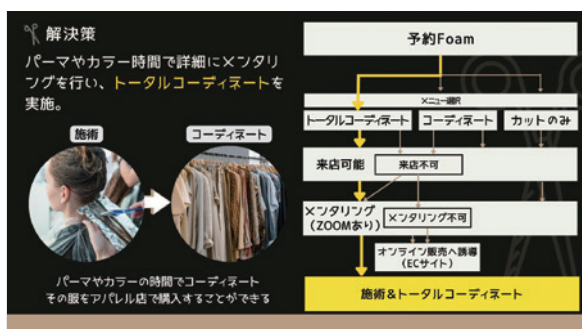
わるし、自分でアレンジできる“変化”が魅力的に感じるんです。

メイクも好きで、学校にばれない程度にメイクして行ったら女子が気づいてくれて。調べた知識を教えてあげたり、学園祭のときに女子たちに頼まれてメイクしてあげたことも。それぞれに似合うメイクをしてあげると喜んでもらえるのが嬉しかった。だから人をキレイにして喜んでもらえる美容師が向いていると思ったんです。

高校では部活はすぐ辞めてしまったのですが、暇が嫌いなんです。夢に近づくための美容室と、あとはコンビニのアルバイトを掛け持ちでやっていました。

高校と通信制専門学校の二足のわらじで夢に近づく

最初は卒業後に美容の専門学校に入って美容室に就職するという一般的な道を考えていましたが、進路先の専門学校を調べていると



【左上】高校時代からバイトしていた美容室「GOOD LIFE GOOD HAIR」にこの4月から正社員として勤務。【右上】情報収集は主に家のパソコンで複数のアプリを立ち上げながら、時間を有効に使って行っていた。【下】「高校生Ring*」の発表で作成したプレゼンシート。学校の探究ともリンクさせ、将来の夢がより具体化していくきっかけとなった。

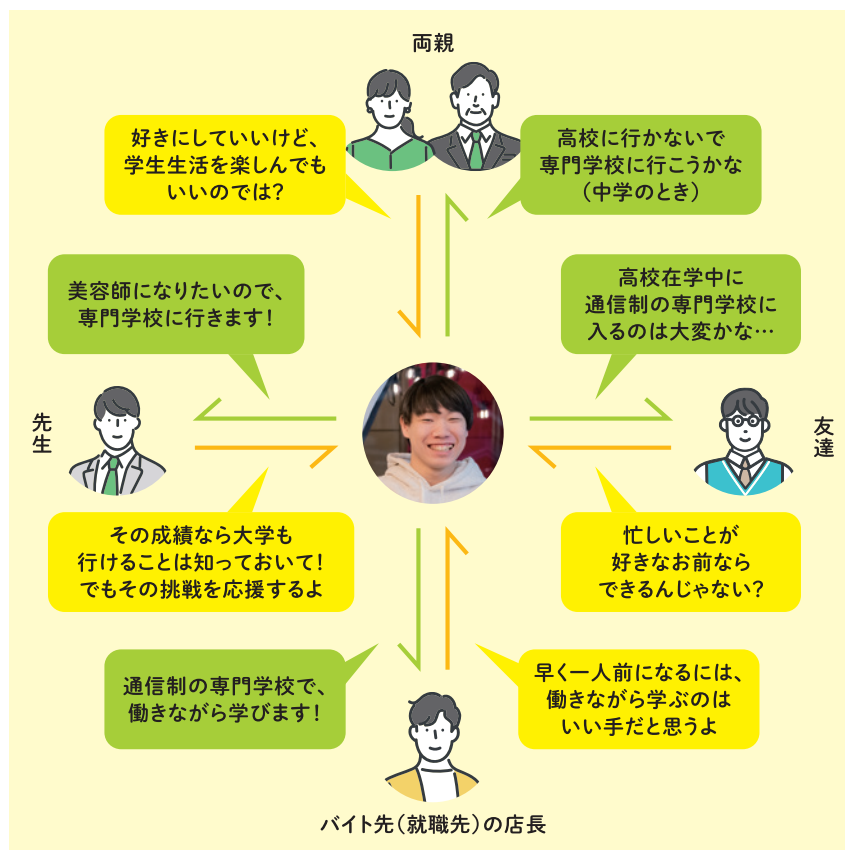
*高校生Ring：リクルートが主催する、高校生のための参加型のアントレプレナーシップ・プログラム。

きに、通信制なら高校に通いながら学べると知ったんです。美容師として一人前になるには、働きだしてから下積みの時間が結構あることを母から聞いていたので、なるべく早く現場に入っておきたかった。高校時代から継続して下積みとして働きながら美容について学べば、一人前になるまでが短縮できます。勉強も割とできたので、学校の先生は夢を応援しつつ、大学進学の間もあるぞと伝えてくれました。でも通信制の専門学校との両立を相談したら、やってみると応援してくれたのです。それで高3の10月から北海道美容専門学校の通信過程とのWスクールが始まりました。バイト先の美容室の方々も働きながら学びたい気持ちを相談したら理解してくださり、高校卒業後は正社員として雇ってくれることになりました。

総合的な探究の時間のテーマを検討していたときに先生から、「高校生 Ring」への応募を勧められました。そこで「服もコーディネートして買える美容室」というビジネスプランを考えてみたのですが、その過程で、どんなことをお客さまに届けたいか具体的にになってきて、なりたい美容師像がくっきりと見えてきました。今の夢は、早く一人前の美容師になって、30歳までに地元の帯広で自分の店をもつこと。お客さまがトータルでなりたい自分になれるよう、髪形に合う服も提供して、遠方からでも来たいと思われる店にしたいと思っています。

社会に出たら最初はうまくいかないこともあるかもしれませんが、でも、不安よりも今までにないことに挑戦できるワクワク感でいっぱいです。

Check!
遠藤さんのあり方への気づき相関図



いつもワクワクしていたいから興味があることは何でもやった。 未来の自分が何を选ぶか楽しみ

品川女子学院中等部・高等部(東京・私立)卒 松井愛花さん

Q 将来の夢は？

「教育×まちづくり」を
キーワードに起業してみたい

Q 夢と出会ったきっかけは？

高校時代に学内・学外の
さまざまな体験学習に
積極的に参加したこと

Q 高校卒業後の進路は？

大学のサステナビリティ観光学部
で幅広く学びます

Q 進路で影響を受けた人は？

母のいつもいろいろな
選択肢を与えてくれる

Q 進路の相談相手は？

家族や、学外で出会ったさまざまな大学生や社会
人の方々

Q 情報収集の手段は？

母や姉がいろいろ教えてくれる。スマホでFacebookを
見て、教育関係のイベントを探したりもしている

Q どんな自分でありたい？

常に成長してたくて、ワクワクすることは何でも
チャレンジしてみる人でありたい

Q 先生や大人からどう見られていると思う？

積極的なリーダータイプ。嬉しいし、信頼される人
になりたい

中高を通して学校内外で たくさんの体験にチャレンジ

母校は中高一貫校で、中3のときに「高校に上がったら好きなことをいっぱい体験して、将来やりたいことを見つけたい!」と思ったんです。きっかけは、姉も通っていたプログラミング教室に参加したこと。そこでは大学生がメンターを務めていて、自分の好きなことを生かしてAO入試(現・総合型選抜)で進学した人などいろんなタイプの大学生と出会って刺激を受けました。

その教室で印象的だったのが、「これからの世界は自分たちで変えて行ける」という話でした。身近な人の困りごとはプログラミングで解決していける。その小さな積み重ねで30年後の世界ができる、と。変化が加速しているなら、自分も社会を変えていく側で、社会貢献できる人になりたいと思いました。

母校も起業体験プログラムや行事など体験的な学びの場が多く、それらに参加しながら、学校外のさまざまな取組にも積極的に参加していました。

気になる取組は自分でもスマホで検索して調べますが、「こんなのあるよ」と母が情報をくれて選択肢を広げてくれることがよくありました。

例えば、居住型教育施設で大学生や社会人と一緒に暮らす「SHIMOKITA COLLEGE」も母からの情報。高2の秋に3カ月間暮らしながら学校に通っていました。夜や土日高校生向けのプログラムがあり、ビジネスについて学んだり、普段は共有スペースで雑談できたりと、さまざまな生き方の大人と触れあうことで、自分の将来像の選択肢が増えていきました。

学校では起業体験プログラムで、若者の防災意識を高めるための防災グッズを企画開発して、実際に製造して文化祭で販売しました。この体験を外部のビジネスコンテストなどで発



【左上】「SHIMOKITA COLLEGE」の共有スペースでは、自分の勉強や仕事をしている人や、その日の出来事などについて雑談する人などカフェのように自由に過ごしていた。【右上】高校の起業体験で商品開発した通学時に役立つ防災グッズ。文化祭で販売、完売した。【右下】社会人や大学生と生活を共にする「SHIMOKITA COLLEGE」の運動会でリーダーを務めた。



表したりもしていました。

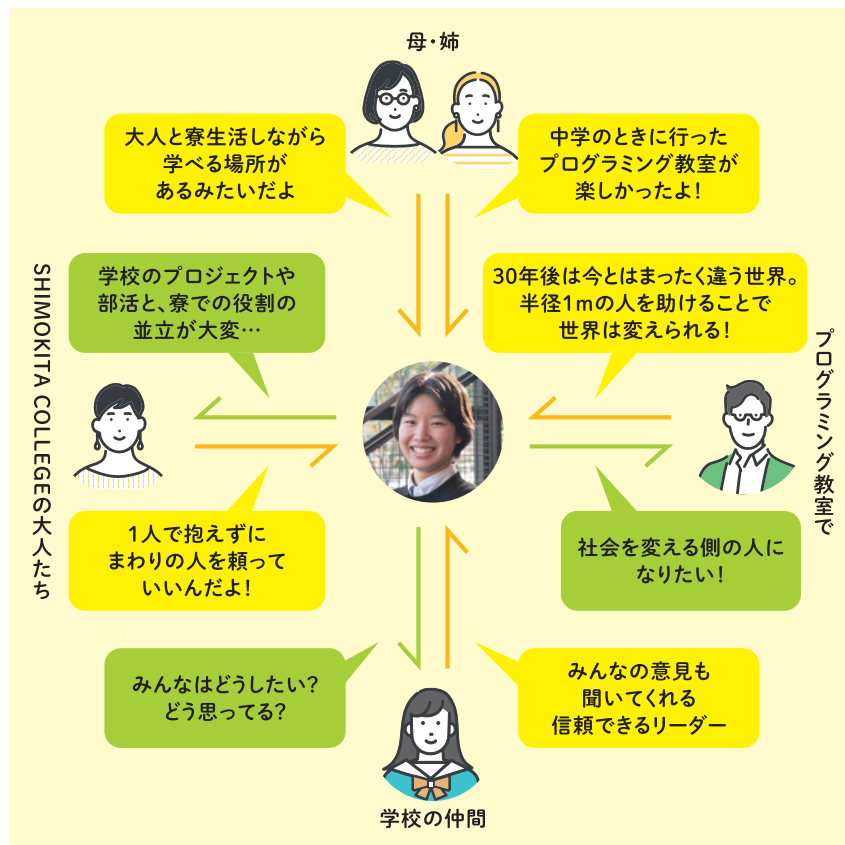
広がった選択肢のなかから 今はない仕事をしているかも

常に成長したいという気持ちが強くて、ワクワクすることがあると後先考えずにやってみなくなっちゃうんです。全部やろうとして大変になって、行き詰まることもありました。例えば、学校の起業体験や部活と「SHIMOKITA COLLEGE」でのイベントリーダーが重なってしまい、しんどい時期がありました。そのときに「SHIMOKITA COLLEGE」の大人が「まわりに頼っていいんだよ」と声をかけてくれました。自分だけで抱え込むことが責任感の表れではないと気づけた経験でした。学校の行事や体験学習でリーダーを務めたときにも、最初は先

頭を切って引っ張ろうとしてましたが、みんなの意見をしっかり聞いて、チーム力を上げた方がうまくいくと気づいたり。人から信頼される存在になるにはまわりに頼ったり、意見を聴くことが大切なことも学びました。

4月からは立命館アジア太平洋大学(以下APU)のサステナビリティ観光学部に進学します。高校時代にコロナ禍で留学を断念したこともあり、約半数が国際学生というAPUの環境に魅力を感じたのです。中学・高校でのたくさんの体験を通じて、教育を変えたことで町が活性化した事例などを知り、「教育」と「まちづくり」に興味をもちました。将来的にはこの二つをかけ合わせて起業できたらと漠然と考えています。そのころには、今はない仕事をしている気もしていて、将来が今から楽しみです。

Check!
松井さんのあり方への気づき相関図



活動的に見えて実はネガティブ。 「誰かのため」ならがんばれるから、人や地域の役に立ちたい

吉賀高校(島根・県立)卒 下野翔輝さん

Q 将来の夢は?

人と人をつなげる仕事で
地元に戻りたい!

Q どんな自分でありたい?

いろいろな人からいろんなものを
もらった経験を生かし、
お世話になった地域に
役立つ人になりたい

Q 高校卒業後の進路は?

大学の地域創生学部
で勉強中

Q 夢と出会ったきっかけは?

探検活動が活発だった母校で魅カ化コーディネーターという人に出会ったこと

Q 休みの日は何をしている?

普段活動的な分家でのんびりマンガゲーム、スマホ三昧

Q 学部で何を学んでいる?

地域実習などプロジェクト活動もたくさん経験しながら、地域の活性化について学んでいます

Q 趣味は?

コレクターでマンガ本や文房具の収集、k-POP鑑賞

Q 大学生活は楽しい?

学部の先輩が地域活動をバンバンやってる人が多く、刺激になる。サークル活動やバイトも楽しく充実している

恵まれた人間関係を通して いろんな経験を積んでいる

島根県の吉賀町出身で、現在は東京の大正大学で地域創生学を学んでいます。地元の吉賀町には地域ぐるみで子どもを育て、大学などで町外に出て積んだ経験や学びで将来、町を支える人材を育成する「サクラマスプロジェクト」というキャリア教育の仕組みがあります。高校までは学校や地元の人々から、現在は大学で先生や先輩、友人、地域実習先の人々からたくさんのことを学ばせてもらっています。いろんなものをもらってできているのが自分だと思っています。

地元にはいたころは、生徒会長を務めたりボランティア活動などもたくさんやっていたのでリーダーシップがあると思われていましたが、実は怠け者で超ネガティブ。課題提出は先延ばしにしようとするし、自分のためだとがんばれない。け

れど、「誰かのため」ならがんばれるし、人から頼られるのは好きなんです。

部活などでも楽天的に考えたり、熱くなりすぎたりして失敗した経験があったので、その反動で常に最悪の場合を考えてしまう。人からは主体性があると言われますが、地域活動に飛び回っている大学の先輩たちを見ていると、「自分なんて全然」と思ってしまいます。ネガティブなのは性格だから付き合っていくしかないと思っています。

頼られることをエネルギーに 将来、地元で恩返ししたい

中学までは安定志向だったので、高校を出たら公務員になって地元の役場に勤めるのだろうと思っていました。でも高校に入ったら3年後に働くイメージが湧かず、じゃあ何をするか考えたときに、友達や先生からは「教師が向いてるんじゃない?」と言われていました。一方で、母校で



【左上】高校時代にアントレプレナーシップ教育(総合的な探究の時間)で、世の中の職業を知るために地元で働く人取材し、動画を作成した。
【右上】地域創生に対する興味を引き出し、進路選択のきっかけをつくってくれた、大正大学の浦崎太郎教授と。【下】母校のアントレプレナーシップ教育成果発表会に参加し、先輩たちからアドバイスを求められた。

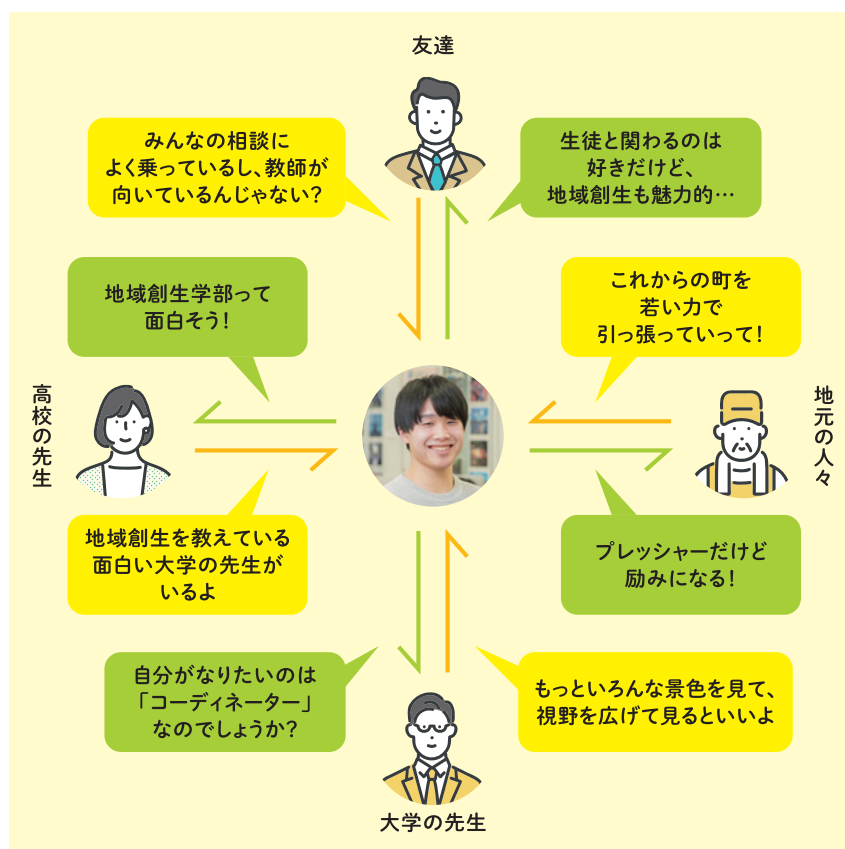
はアントレプレナーシップ教育(通称:アントレ)で地域課題に取り組んでいて、担任の先生から、現在学んでいる大正大学の浦崎太郎教授を紹介されて地域創生に興味を湧いたんです。アントレに関わってくれた地域魅力化コーディネーターの人にも出会い、地域と学生をつなぐコーディネーターという仕事が面白そうだなと。浦崎教授が所属する地域創生学部に入ったらなれるような気がして進路を決めました。

大学生活はとても充実しています。全国の地域活動に関わっていく先輩たちから刺激を受けながら、地域創生について学んでいるところです。さまざまな地域活動のなかで多数の「コーディネーター」という肩書きの人々と出会いました。でも、その人たちがやっていることがそれぞれ異なるため、「コーディネーターとはそもそも

何か?」「自分のやりたかったことは何か?」という課題にぶつかっています。「人と人をつなげたい」という軸はぶらさずに、自分に何ができるかこれからの大学生活で学んでいきたいです。

高校時代の友人たちは、地元に残った人、県内外の大学で学ぶ人など進路はいろいろです。この夏、成人式(二十歳の記念式)で集まることになっていて、幹事に任命されています。怠惰でネガティブでもみんなから頼られて任されることは嬉しいんです。地元の人たちからは「これからの町を若い力で引っ張って行って!」とプレッシャーをかけられていますが、それ自分にはエネルギーになります。地元が大好きでその理由は“人”です。どんな形であっても地元には恩返ししたいと思っています。

Check!
下野さんのあり方への気づき相関図



「あり方」を進路につなげる高校事例

社会のなかで自分がどうありたいかを思い描くことは、情報はたくさんあっても実感として得たものはまだ少ない高校生には難しいものです。生徒が自分の思いをもって踏み出せるように、学校ができることは。2校の先生方にお話を伺いました。

Case 1

連携企業での育成型アルバイト「キャリアシップ」や丁寧な面談で、生徒が自分と向き合う

錦城高校（兵庫・県立）

実社会での成功・失敗体験 どちらも学びにできるように

兵庫県立錦城高校は、「自分を見つめなおし、学びなおし、自分自身の生き方や自分の在り方を探してみたい」と考える生徒の入学を歓迎する夜間の定時制高校だ。不登校や勉強に意味を見出せなかった経験をもつ生徒が、社会体験や面談を通して自己理解を深め、今後のキャリアを見据えていく。

同校のキャリア教育の特徴の一つが「キャリアシップ」だ。学校と企業が打ち合わせてから、生徒がその企業でアルバイトをする（[図1参照](#)）。協力するのは地元企業24社で、現在も連携先を開拓中。校内には授業のない昼間に一般のアルバイトをする生徒も多いが、その体験との違いを、キャリア教育部の上村耕平先生は次のように説明する。

「一番大きいのは、生徒の特性をわかったださっている企業の下で、仕事を体験できることです。コミュニケーションや継続に苦手

意識があり、アルバイトに踏み出せずにいた生徒も挑むことができます。また、互いの相性が合えば卒業後に正社員にすることも見据えてくださっているので、単純作業で終わらず、スキルを磨くこともできるのです」

同校は毎年春に企業ガイダンスを行っており、その後のアンケートで協力企業に興味を示した生徒に、キャリアシップをやってみないか声をかけるという。また、アルバイトなどの社会経験がない生徒に対して、担任が話をもちかけることもある。

キャリアシップをやってみても、続かずに終わる生徒も当然いる。だが企業の理解があるので、この取組ではその失敗もプラスに捉えていく。

「自分にこの仕事は難しい、と生徒が感じ



左より、4年主任の清家大雅先生、キャリア教育部の上村耕平先生、佐藤恵先生

たなら、社会に出る前にそれがわかって良かったと。成功・失敗を含めて『わかる』ことを学びとしています。卒業生の調査では、就職後に『こんなに大変だと思わなかった』『思っていた仕事と違った』と感じると、離職しやすいという結果が出ています。本校がキャリアシップに力を入れるようになったのは、そうしたミスマッチを防ぎ、生徒が自分に合ったキャリアを歩めるようにするためなのです』(上村先生)

このほか、1年生から4年生にかけて、総合的な探究の時間やロングホームルームの時間に、生徒が自分を理解し、地域や社会を知る取組も行っている。また、学期ごとに面談を行い、3年生からは就職や進学を見据えた面談も丁寧に行っている。

周りがどうかではなく、 本人がどうしたいかに迫る

その面談の際に、キャリア教育部の佐藤恵先生や、4年主任の清家大雅先生は、生徒が「本当はどうしたいか」を確認することを大事にしているという。

「親はこう言っている、学校が紹介してくれたから、と彼ら彼女らなりに気を使い、なかなか本心を出せないことも多いのです」(佐藤先生)

「早く決めて楽になりたい、と考える生徒もいます。ですが、今までの例でも、親や担任の顔をうかがい、流されるままに決めた生徒は、結局続かないんです。最後の決定を自分以外にゆだねたので、うまくいかないと『親や先生のせいでこうなった』とどうしても

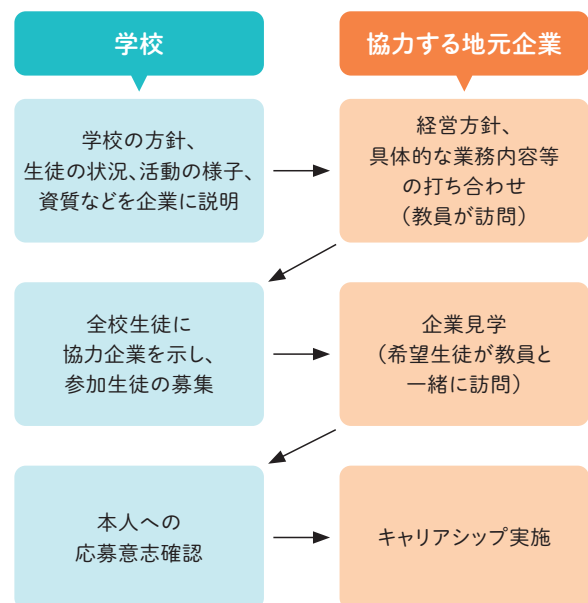
責任転嫁したくなり、選択した道から降りてしまう。ですので、まずは生徒の思いを聴き出そうとしています」(清家先生)

ではどうすれば生徒の本心に近づけるのか。佐藤先生は、普段の教科授業から「どうせ、という言葉を使う人にならないで」と意図的に言い続けている。自分の前では照れ隠しせず本音を出していい、と生徒に感じてほしいからだ。清家先生は「待つ」ことを重視している。「間違っただけでも曖昧なことでもいいから自分の思いを出してくれ」「親がどう思うか不安とか、悩みがあればそこは一緒に考える」と背中を押しながら。

だが、待つといってもリミットはあるはずだ。もし卒業までに進路が決まらなかったらどうするのか。

「進路指導としては、支援の至らなさを反省したいと思います。ただ、卒業までに進路が

図1 キャリアシップのイメージ



アルバイト契約からスタート→最終的には正社員になることもある
(受け入れ期間は敢えて決めない)

決まらなかったとき、その生徒が人生すべてを否定されたような感覚になってしまうのは、違うと感じています」(清家先生)

その思いは、生徒のキャリアシップに付き添い、地元企業の人たちと話を重ねるなかで強まったという。

「『経歴に空白のある子や、立ち上がれない期間があった子でも育てていきたい』と、地元の子に寄り添ってくださる企業も少なくなかったのです。生徒によっては『いつまでに決めないとダメだ』『選択を間違えてはいけない』と理想が高くなりすぎていることもあります。それだけに、こんな生き方もあるよね、と別の見方もできるようにし、『周りとの比較で自分を傷つけて終わる』ことがないようにしたいです。最後は『自分が自分を認めてあげられるかどうか』だと思うのです」(清家先生)

必要とされたことも 悩んだことも糧にして

キャリアシップや面談は「一朝一夕では成果が出ない」(佐藤先生)ものでもある。それでも回を重ねるほど、変化は生まれていくという。

例えばキャリアシップに参加したある生徒は、アルバイトをした企業に就職することを決めた。彼がその選択に踏み出せたのは、2年近くバイトするなかで、適性に合った仕事をどんどん任せてもらえるようになり、「自分はこの会社に必要とされている」と実感

キャリアシップでは製造や介護など、一般のアルバイトでは経験しづらい仕事にもふれられる。就業実践中にトラブルが起きたときや、生徒がつまらそうなときに、学校と企業が連携してフォローできる良さもある。



できたからだった。

1年生のときに働きたくないそぶりを見せていた生徒は、学年が上がるにつれ「家でコツコツやる仕事が向いていると思うからやりたい」と佐藤先生に相談できるようになった。企業見学などに挑むことにはまだためらいがあり、今はやりたいことに向かう次のステップを検討中だ。

「他人と比べてしまう自分をどうすればなおせますか」と質問してきた生徒もいる。佐藤先生は、自分も高校生のときにその葛藤を抱えていたことを伝え、でも自分の人生の主人公は自分であり、ならばどうありたいかを、話し合っている。

「高校生のときに悩みと向き合うことは、人生にとってプラスに働くこともあると思うのです。だから、今はある意味でチャンスなのだと思え、本人が壁を乗り越えられるように支えたいと思っています」(佐藤先生)

学校
データ

1951年創立／普通科／生徒数153人(男子83人・女子70人)／4年ないし3年で卒業できる定時制高校。
生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導とキャリア教育を重視。令和3年度キャリア教育 文部科学大臣表彰 優良校受賞。

地域を舞台に、多様な人と関わりながら 自分のあり方を発見する課題解決型学習

吉城高校（岐阜・県立）

学校外でも挑戦できる環境で 知らなかった自分を発見する

岐阜県立吉城高校は、進学から就職まで、生徒のさまざまな進路希望に応えるために、複数のコースと多様な選択科目を備えた単位制高校だ。同校は2015年度より、校内にキャリア推進部を立ち上げて、「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」という取組を推進してきた。「地域を舞台に、自分はどうか、どう生きたいのか、自分のキャリアと切り離せない課題を発見し、解決していく力を身につける」ことを目標とする活動だ。

キャリア推進部の谷口智康先生や近藤恵子先生は、その活動の魅力をこのように語る。

「本校に赴任するまでは、『高校生の活動』といえば、勉強と部活動、生徒会活動を中心に考えていました。ですがこの学校では、地域のなかで生徒がチャレンジできる活動も本当にたくさんあるんです。そのなかで生徒が『やってみたら楽しかった』『難しかった』という新たな発見をすることも多く、『ではそれを踏まえて今後どうしたいのか』と、自分のあり方を見つめることにもつながっていくと感じています」(谷口先生)

「生徒が地元の魅力や興味あるテーマを発見するだけでなく、その生徒自身が、学校

にいるときはまったく違う顔を見せることも少なくありません。授業中はいつも静かにしていた生徒が、地域の方々と楽しそうに話していたり。生徒の別の一面を知ることができるので、一人ひとりの進路を一緒に考えていくうえでも有意義だと思います」(近藤先生)

具体的にはどんなことに取り組んでいるのか。

例えば、1年生の総合的な探究の時間では、「進路探究」をテーマに、地域の大人と語り合う。保健師や酒造家、エンジニア、薬剤の研究者、ドローンパイロット、地域おこし協力隊など、社会人20名前後を招き、生徒が少人数に分かれて囲むという。この活動を牽引しているのがキャリア推進部の野道達也さんだ。

図1 課外活動プログラム

課外活動プログラムや2年生の探究活動のなかには、飛騨市長が講師を務めるワークショップもある。市長が「自分にとっての理想のまちのあり方」を示し、その「理想」と「現実」のギャップを課題として捉え、解決策と一緒に考えるのだ。そのプロセスは、生徒が課題解決型学習に応用していく手法でもある。ほかに、小学生の学習サポートや子ども食堂の手伝い、写真や俳句によるまちの活性化など、さまざまなプログラムが用意されている。

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 刊行物 >> キャリアガイダンス (Vol.446)

「会は年2回開催し、2回目のときは講師の方に、これまでの人生のアップダウンを折れ線グラフで示したものの、いわば人生の転機が一目でわかるものも用意していただきます。それを基に生徒から質問もし、自分のキャリアをどう切り拓いていくかを一緒に語り合うのです」(野道さん)

また、2年生の総合的な探究の時間や、学校設定科目「ESD 地域課題探究／国際理解探究」では、生徒たちが地域に出て課題解決に挑む。具体例をあげれば、郷土料理による地域活性、ご当地キャラの考案、地域の空き家の活用、外国人観光客も視野に入れたまちづくりなどだ。

さらに土日や夏休みには、[図1](#)のような課外活動プログラムにも参加できる。市役所や地元のNPO法人と連携して開講しているもので、教育や福祉からまちづくりまで、幅広いジャンルの活動に挑めるのだ。

生徒の心が動いたところから 課題解決に向かう学習に

もともと、YCKの活動には課題もあった。ともすれば「活動あって学びなし」になりかねないことだ。

プロジェクトに発足当初から関わってきた鈴木泰輔先生は、2021年に生徒および教員にアンケートを実施。すると、生徒の自己認識でも、教員の生徒に対する認識でも、

前列左より、地域創生キャリアプランナーの野道達也さん、キャリア推進部長の鈴木泰輔先生。後列左より、キャリア推進部の谷口智康先生、校長の野々山伸一先生、キャリア推進部の近藤恵子先生



「体験したことから視野を広げたり、学びを深めたりする部分はまだちょっと弱い」という結果が出たという。

だから同校は、生徒たちが自分のなかにある思いを具体化していくことや、学んだことを言語化していくことにも力を入れてきた。

「例えば地域の探究活動は、課題発見から始めると、どうやって課題を見つければいいのかわからず、自分がやりたくもない課題をひねり出してしまいがちです。そこで、まずは地域のなかで『自分が魅力を感じるもの』を発見し、それを持続・発展させるような『自分の理想』も思い描き、どうすればそれを実現できるか、というところから課題を見出す設計にしました([図2も参照](#))。また、生徒が『1年後に自分はどうありたいか』を思い描いてから活動に取り組むようにもしています」(鈴木先生)

このほか、課外活動プログラムでも事前・事後に自分を振り返り、年度末に行う活動全体の報告会でも、この先の展望や、自分の成長まで言語化するように促している([図3](#))。

人との関わりを通して 自分のあり方が定まっていく

取組を進めていくと、汎用的な資質・能力を測るテストの結果でも、生徒の「課題発見力」や「情報分析力」が、春先よりも年度末のほうが着実に高まるようになったという。

自分が何を大切に、どうありたいかを、進路と結びつけながら描けるようになった生徒も増えている。

ある生徒は、郷土料理に魅力を感じ、「今後も受け継がれるようにしたい」という課題意

識から、得意のイラストを生かして地元の惣菜店や飲食店を紹介するパンフレットを制作。入学当初は美術の専門学校に興味をもっていたが、「情報やデザインの力で地域の魅力を発信したい」というより明確な思いを抱くようになり、大学の情報学部に進学した。

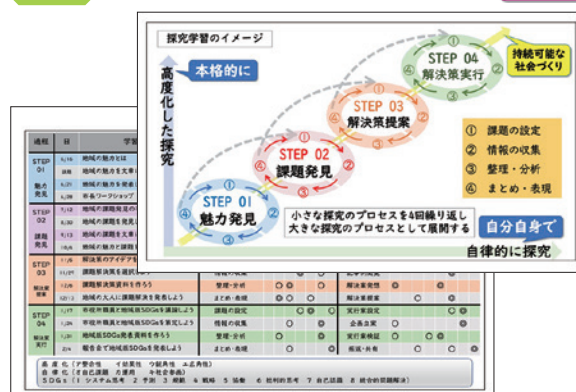
また別の生徒は、課外活動プログラムで、「ヒダスケ!」という地元・飛騨市の「お助け」を「ワクワク」にする（楽しみながら助ける）取組に参加。「面白いのになぜみんな参加しないのか」という課題意識をもち、生徒へのアンケート調査から企画の立案・実施まで進め、10人以上も参加者を増やすことに成功した。しかしその過程で「人にアクションを起こしてもらうことの難しさ」も痛感し、だからこそ「公務員になって多様な立場の人と行動を共にしたい」と思うようになり、大学の法学部に進学した。

そのように、「付け焼刃ではない思いが根を下ろしてきた」ことに、野々山伸一校長も手ごたえを感じている。

「地域の活動を通して、生徒たちは多様な人から褒められ、認められることを経験し、『自分の良さってこれなのかな』と思える部分が発見してきました。そして『その自分にできることや、挑戦したいこと』まで見出す生徒が増えています。となると、進学や就職に向けた面接の指導などは行うにしても、下地はもうできているわけです。だから、志望先でやりたいことを突っ込んで問われても、急ごしらえ

の動機ではないので、ボロが出ることもなく、自分の思いをちゃんと話せます。自分のあり方や、自分のやりたいことを、自分の言葉で語れるだけのたくましさを培ってきた。そのことが、進路選択においても、社会に出てからも、本人の力になると思うのです」

図2 探究活動のプロセス



地域の探究活動では、SDGsにもふれていく。「地域の魅力の維持や発展を考えると、持続可能な社会づくりにもつながり、学んだことはこの先どこで暮らすしても生かせる」(鈴木先生)ことを感じてほしいからだ。

図3 自己を見つけて言語化する工夫

課外活動プログラムの事前・事後学習に活用するワークシート。参加した理由から、活動中に意識することや、活動で得たものを言語化していく。野道さんが中心となって毎年のように改善を加えているという。

全校で行う報告会に向けて活用するワークシート。背景や目的から、取り組んだ内容、結果、展望、自分の成長まで、活動を総合的に振り返る。

学校データ 1948年創立 / 普通科・理数科 / 生徒数319人(男子155人・女子164人) / 2020年度より、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の事業特例校の指定を受ける。

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト: リクルート進学総研 >> 刊行物 >> キャリアガイダンス (Vol.446)

「自分のあり方」を 考えるためのヒント集

最後に、「自分のあり方」を考えるためのヒントを集めました。
実際に学校で取り入れられているワークを4つご紹介します。
編集部おすすめtipsも合わせて、ぜひ指導にご活用ください。

01

価値観ワーク

by 隠岐島前高校(鳥根・県立)

個人ワーク/グループワーク

2コマ+α

自分にとって大切な価値観を探り、言語化する

自分にとって大事な価値観を探るのが、「価値観ワーク」。正直さ、責任、自由、楽しさ…などさまざまな価値観を挙げたリストを基に、ピンときたものを選び取っていくのが基本。「自分にとって大切なことベスト3を選んでみよう」と

選ぶ数を決めてランキング形式にしたり、「今の自分に1番大きな影響を与えた、過去の出来事・経験は？それはどのような価値観と関係している？」と具体的なシーンが思い浮かぶよう問いを立てたりするのも有効だ。

ダウンロード可

【行ったらマラソンが目標】
・実際にやる時に、自分にとっての価値観を見出すようにするため。
・チームワークが最大限発揮できるチームを組むため。

ウォームアップ
価値観キーワードリストを眺めて、気になるものに印をつけよう。何個でもOK！
大抵は思いがけない言葉が出てくるかもしれないので、よく読んでみよう。

ステップ1
20個以内で考えて、各人に際立った強い価値観キーワードを（できれば5語以上）あげよう。
1. 価値観する人、友人、キャラクターは誰ですか？その人のどんなところが尊敬していますか？

ステップ2
キーワードを5つに絞り、ランキングをつけよう。

1位
2位
3位
4位
5位

ステップ3
実際に挙げたキーワードの中から、目的のためにフォームを記入しよう。
（自分にとっての価値観の目的）

まとめ
関わりたい分野
重要なこと（チームに貢献できそうなこと）
その分野へのこだわり
絶対にやりたいこと、できればやりたいこと、他の分野もよい

（ランキングの仕方）
最終目的と異なるものが1位になるよう
する。つまり、2つを取り上げて「どちらが
最終目的か？」を考える。
・下位キーワードが達成される上位に集
まるのがよい。

挑戦・チャレンジ	安全・安心	正直さ	信頼
自立・独立	協調性・調和	成長・学び	社会貢献
自由	責任	行動・成果	忠実・探求
変化	誠実	お金・報酬	質素
社会性	ゆとり	身体	美
創造性	効率性	情緒	地域
家族・友人	大志・偉業	情	謙
社会的貢献	自分らしさ	専門性	総合性
地位・権力	責任・実証	多様性	全体的
楽しさ	寛容さ	柔軟性	柔軟性
公平さ	謙遜さ	謙遜さ	謙遜さ
受容	信念	人脈	能力
		努力	達成

2コマの授業の中でステップ3まで進み、まとめ部分の最終提出は1カ月後とした。生徒たちが自分の本心と向き合えるよう、ステップ3までの記入内容は回収せず、「先生に見せるためのワークシート」にならないよう意識したという。

ダウンロード可 ※ダウンロードサイト：リクルート進学総研 >> 刊行物 >> キャリアガイダンス (Vol.446)



How to Work

『隠岐島前高校「夢探究I」の事例』

ワークの活用シーン

1年次3学期に実施した、地域で実践的な探究活動を行う際のチーム決め。「大事にしている価値観」が近い生徒でチームを組んでいく。

ワークの目的

活動に取り組むにあたり、自分にとっての意義を見いだす。チームワークが最大限に発揮できるチームを組む。

ウォームアップ

「価値観キーワードリスト」を眺め、気になるものに印をつける

48の価値観キーワードから直感的に選ぶ。自分が大事にしたい・大事にしていることを選べるとベター。

ステップ1

4つの問いに答え、関連の強い価値観キーワードを挙げる

15個以上挙げることを目標に。問いの例：「尊敬する人、友人、キャラクターは誰ですか？ その人のどんなところを尊敬していますか？」「自分はどんなことにこだわっているように見えるかを、周りの人2人以上に聞いてみましょう」。

ステップ2

ステップ1で出てきた価値観キーワードを整理する

似たキーワードをグループにして、マインドマップを作る。難しければ飛ばしてもOK。

ステップ3

出てきたキーワードを5つに絞り、ランキングをつける

迷ったら2つを取り上げ、「どちらがより大事にしたいか？」を考える。難しければ直感で並べてもOK。

まとめ

リフレクションしたことをまとめる

「活動を通して自分はどうなりたいか（自分にとっての活動の目的）」、「地域にどうなってほしいか（地域にとっての活動の意義）」などを書き出す。

！ 注意点 生徒にとって重たくならないよう、最初のハードルを下げるのがコツ！

Voice

導入者の声

「なんとなく」の自己理解が価値観の言語化でより深まる

隠岐島前高校 三島健士朗先生・コーディネーター 新立みずきさん

1年次の4月には、気になる価値観を選んで自己紹介するというワークをしました。3学期に行ったワークでは、自分は何を大事にしている人間で、どうありたいか、どうなりたいかを言語化したことで思考が整理され、より自己理解が深まったのではないかと思います。大事なのは、最後のまとめへの橋渡し。授業の中で考え方、深め方をフォローしつつ、なかなか書けない生徒については対話を通して言葉を引き出していきました。

「自分のあり方」を起点に進路を考え、 自分が輝く場所を見いだす

高校生、大学生が進路を考えるためのツールとして開発されたのが、「未来の自分をつくる場所 進路を考えるためのパターン・ランゲージ(通称:ミラパタ)」。27枚のカードに記された考える視点やヒントを基にリフレクションし、「自分らしさ」や「自分のあり方」を出発点に、自分が輝く場所を見いだしていく。

How to Work

『某定時制高校の事例』

ワークの活用シーン

2年次末(3月)、LHRの時間などを使って。ゲーム、イベント感覚で一過性のものに終わらせないよう、パターン・ランゲージについて生徒に丁寧に解説してから行った。

ワークの目的

生徒が自分自身の混沌とした状態を整理し、自己を発見する。



カードは「A:輝き方を見つける」「B:輝く場所を見つける」「C:輝く先に向かって進み続ける」の3パートに分かれており、進路選択のステージに応じて活用できるようになっている。

※Amazon.co.jpで購入可能

ステップ 1 パターンカードを熟読し、 実践状況を振り分ける

個人でカードを読み、自分の中で「実践している」「少ししている」「していない」に振り分ける。

ステップ 2 自分が人に話せそうな パターンを選ぶ

改めてカードを吟味し、自分が人にエピソードを話せそうなパターンを選んでワークシートに記入する。

ステップ 3 グループでシェアし、 フィードバックする

「日々自分が大切にしていること」「なぜそれが大切なのか」などをグループでシェア。互いの発表に対して、記入もしくは口頭でフィードバックする。最後に振り返りを行う。

Voice

導入者の 声

自分の内面を整理・発見し、心構えをつくる

佐倉南高校 小川貴広先生 ※前任校でのケース

ミラパタは、「心構え」をつくる手段の一つです。カードの「状況・問題・解決」まで読み込んで自分自身の経験や課題と照合すること、そして、生徒同士のコミュニケーションを通して気づきを得ることを大事にしています。生徒からは、「未来の自分の理想像を思い描いてみようと思った」「生活の中にパターンを取り入れていきたい」など前向きな声が寄せられています。

※ミラパタの学校での導入方法に関するオンライン説明会も予定。詳しくはクリエイティブシフトのウェブサイトをご確認ください。https://creativeshift.co.jp/product/2372/

マインドマップ

by 白井高校(千葉・県立)

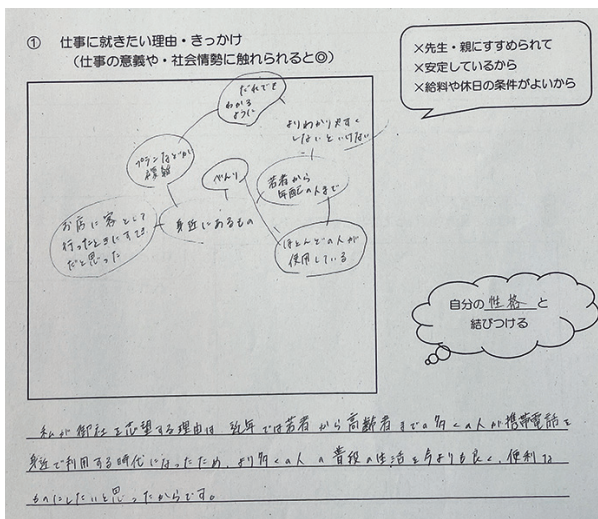
個人ワーク

3コマ

宿題にも◎

キーワードから広げ、深めて、 潜在的な要素を可視化する

短いキーワードを書き出し、そこを起点に地図を描くように思考の広がりや可視化していくのがマインドマップ。アイデア出しなど発想力が求められるシーンでよく使われるが、自分の潜在的な興味・関心や動機、価値観を深掘りし、可視化するのにも有効だ。ありがたい自分ややりたいことを探るといふ、高校でのキャリア教育や進路指導との相性もいい。



携帯電話販売業者に内定したある生徒のワークシート。「(携帯電話は)身近にあるもの」「若者から年配の人まで」「よりわかりやすくないといけない」「だれでもわかるように」とその仕事に就きたい理由を深めていった。

How to Work

『白井高校「就職講座」の事例』

ワークの活用シーン

進路指導部が行う、就職希望の3年生向けの「就職講座」にて(1学期に実施)。

ワークの目的

生徒が志望動機を言語化し、動機に合った就職先を見つけ、履歴書作成につなげるため。

ステップ 1 3つの要素について キーワードを書き出す

①「仕事に就きたい理由・きっかけ」、②「就職を希望する会社のPRポイント・自分がどのように関わるか」、③「入社後の意気込み(自分の長所やがんばってきたこと)」の3つの要素について、思いついた言葉を自由に書く。

ステップ 2 書き出したキーワードから 発想を広げる

書き出した言葉のうち関連性があるものは線でつなぐ。また、書き出した言葉から浮かんだことを、短い言葉で書いていく。

ステップ 3 キーワードをもとに 短い文章にまとめる

マインドマップを参考に、上記の3つの要素について2~3文の短い文章を書いてみる。

Voice

導入者の声

自分の動機をキーワードと問いで具体化する

白井高校 浅川夕風先生

文章を書くのが苦手な生徒でも、キーワードなら書ける。じゃあキーワードから広げたり深めたりしていこうと考えたのが、マインドマップを取り入れたきっかけです。こちらから「なぜ・どうして・どのように」と問いかけ、具体化、言語化を促しています。志望動機が書けないという進学希望者にも、マインドマップを描くようアドバイスしています。

VUCA時代の新しい職業観ワーク 動画ワーク

by 東京学芸大学附属竹早中学校 (東京・国立)

個人ワーク/グループワーク

4コマ

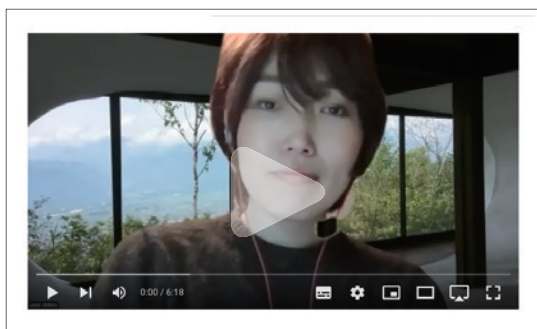
他者のさまざまな価値観に触れ、「自分の価値観」を浮き立たせる

生徒が「自分のありたい姿」を描くためには、「自分の価値観」が定まることが不可欠。そのためには、まずは他者のさまざまな価値観に触れることが大事。この視点に基づき、他者を通して自己を見つけることを意図して作られたのが、東京学芸大学附属竹早中学校×
クロスツリー
NPO法人xTReeEによる動画ワークだ。生徒たちは職業も属性もさまざまな大人たちへのイ

ンタビュー動画を視聴したのち、自分が感じたこと、考えたことをグループでシェアする。動画を通して多様な価値観、職業観があることを知るだけでなく、生徒間でも感じ方や考え方が違うことを肌で感じ、それにより自分自身の価値観がクリアになることを意図している。中学生を対象にしたものだが、高校生でも十分に取り組む意義がある。



xTReeEから質問事項の提案を受け、生徒が答えやすい質問になっているかどうかを先生がチェック。意見を出し合いながら内容や順序を考え、14の質問を作っていた。



- Q 今、夢中になっていることはありますか？
- Q 中学生のときの関心と今の仕事のつながりはありますか？
- Q 今の仕事や活動をしていて良かったことはなんですか？

全員で視聴する動画の一つ、「ちーさん」へのインタビュー
#未だに自分の全てはよくわからない
#だからいろんな活動やいろんな人を通して自分を理解しようとしています
#雑誌を読むのも仕事も繋がる

実際の動画はこちらから



ダウンロード可 ※ダウンロードサイト: リクルート進学総研 >> 刊行物 >> キャリアガイダンス (Vol.446)

※1授業実施の際はxTReeE (info@xtreee.or.jp)まで事前連絡ください

How to Work

『VUCA時代の新しい職業観ワーク』

ワークの活用シーン

中学2年生を対象にしたキャリア教育の授業。xTReeEのキャリアコンサルタントがオンラインで講師を務め、担任も伴走する。

ワークの目的

他者の多様な価値観、職業観に触れることを通して、自分の価値観を見いだしていく。

ステップ 1 14の質問に答える

答えやすい質問から始まり、後半には「あなたはどんな大人になっていきたいですか?」「大人になったときにこれだけは大切にしておきたいと思うことは何ですか?」「仕事とは何でしょうか?」といった本質的な問いが出てくる。

ステップ 2 動画を5本視聴する

最初の3本は全員が同じものを、あとの2本は自分で選んだものを個別に視聴する。各動画にはその人の価値観や職業に関するキーワードがハッシュタグ(#)としてついており、生徒はそれを参考にして動画を選択する。

ステップ 3 グループで意見・感想をシェアする

3~4人のグループで、動画を視聴して感じたこと、考えたことをシェア。他の生徒がどう感じたか、考えたかを受け取る。

ステップ 4 身近な人にインタビューをして新聞を作る

動画のように親など身近な大人にインタビューをし、その内容をもとに新聞を作成。グループの代表者がクラス全員の前で発表する。発表後、最初に回答した14の質問のうち上記3つの質問に再度答える。

同校では、1年生は「自分自身を知る」、2年生は「他者を通して自分を知る」、3年生は「自分のあり方を考える」というテーマで、一貫したキャリア教育を実践している。1年次は、自分を知り相手(クラスメイト)を知って信頼関係を構築するワーク「はじめての名刺ナビ※2」、2年次は今回紹介した動画ワーク、3年次は、動画ワークで見えてきた自分の価値観を軸に「ありたい自分」を言語化するワーク「ありたい姿の名刺※2」に取り組む。

Voice

実践者の声

価値観という一歩踏み込んだ領域に生徒の意識が行くように

(東京学芸大学附属竹早中学校 中野未穂先生)

生徒を見ていて、自分のことをあまりわかっていない、自己理解を深めたくて自分を表現し、相手のことも受け取れるようになってほしいな、という思いがありました。また、中学2年生で取り組む職業調べを、もっと踏み込んだものにしたいという思いもありました。印象的だったのは、最後の身近な人へのインタビューで、「どういう仕事ですか?」に留まらず「どう考えていますか?」

と価値観を問うような質問が出ていたこと。動画ワークを通して、「自分が今、一生懸命にやっていることの意義を再発見できた」「~という言葉に勇気づけられた」という生徒もいました。また、キャリアコンサルタントとつながることで、私自身にも気づきや変化があり、子どもたちにかける言葉や接し方も変わりました。

※2「はじめての名刺ナビ」「ありたい姿の名刺」について詳しくはこちら
<https://edumotto.u-gakugei.ac.jp/2022/05/31/1666/>
<https://edumotto.u-gakugei.ac.jp/2022/08/29/2025/>



本や漫画で読んだことやSNSでの誰かの発信が、「自分のあり方」を考える、思わぬきっかけになることもあります。ここでは、編集部員おすすめのサイトや書籍をご紹介します。先生方も、ぜひ一緒に。

05

日本仕事百貨

どこでどんな暮らしをしたい？ 誰とどんな仕事をしたい？

さまざまな仕事を、そこで働く人へのインタビューを通して紹介する求人サイト。自分はどこでどんな暮らしをしたいか、誰とどんな仕事をしたいか、どんなふうに働きたいか…記事を読むことを通して、そんな問いが自然に湧いてくる。読みやすい文章で丁寧に綴られているので、高校生でも違和感なくその世界に入っていける。給与や待遇といった具体的な求人情報も、「働く」のリアルを知るうえで有益だ。

赤羽(本誌デスク)

どんな仕事をしているかだけでなく、どういう思いで働いているのかを、実際に働いている人の言葉や写真を通して知ることができます。「こんな仕事があるんだ」と視野が広がったり、「こういう気持ちに共感する」と自分の仕事に対するスタンスを考えたりするきっかけになりそうです。



<https://shigoto100.com/>

「街並みを残し、営みを残す文化の継ぎ人(古民家宿の運営・企画スタッフ)」「楽しいから、続いていく100年後の地球にわたしたちができること(植樹プロジェクトの企画運営担当、事務、広報)」など、記事のタイトルも味わい深い。

今週末の日曜日、ユニクロで白T買って泣く

06

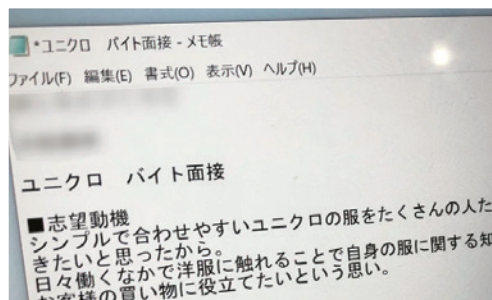
しまだあや

自分では気づかなかった 自分らしさと出会い、一步を踏み出す

「今週末の日曜日、私はユニクロで泣く。」そんな一文から始まる、作家であるしまだあやさんのnoteの記事。「家の94%を、地元の20代以下に開放している」しまださんの自宅には、さまざまな若者がやってくる。その1人であるRくんが、バイトの面接試験を受ける前に履歴書を見てほしいと申し出るところから話が始まる。しまださんの「なんで？」からRくんにしか語れない志望動機が引き出される過程に、つい引き込まれる。

赤土(本誌編集長)

わずか30分のできごと。それでも、奈良に住む18歳の青年にとっては、まだ知らなかった「自分のあり方」を、ドキドキと見つめるできごとだったのだと思う。時間ではなく深さ。筆者であるしまださんの目線がどこまでも優しく、節目ごとに読み返したくなる物語。



ユニクロに提出する履歴書の、志望動機欄。「ユニクロをたくさんの人に知ってもらいたい(上)が、「自分を変えたい人の、“最初の一着探し”を手伝いたい(下)になるまでに何があったのかは、ぜひ記事で。



<https://note.com/cchan1110/n/nfe51e6e81c25>



07

しごとへの道1

鈴木のりたけ／ブロンズ新社

「しごとへの道」は一つじゃない。
「こうあるべき」に縛られないで

絵本作家の鈴木のりたけさんが、3名の社会人にインタビューし、それぞれが今の仕事に就くまでの半生をコミックで描いた読み物シリーズ。子どものころ好きだったもの、学生時代に教師からかけられた言葉、社会に出てからの挫折や紆余曲折など、きっかけや転機は人それぞれ。迷ったり悩んだり失敗したりしながら自分の道を歩む姿は、進路を考える高校生にもきっと響くはず。

赤羽(本誌デスク)

普段なかなか聞く機会のない、今の仕事を見つけるまでのエピソードや影響を受けた人、言葉との出会いが細かく、じっくり描かれています。当たり前だけど忘れがちな、「しごとへの道」は一つではないというメッセージに、子どもだけでなく大人も勇気をもらえるような1冊です。



シリーズ1冊目には、パン職人、新幹線運転士、研究者の3つの職業を収録。パン職人になろうと思ったものの行き詰まり、「どうしたらいいんだろう」とぐるぐると思い悩む様子が描かれている。



08

ハチミツとクローバー

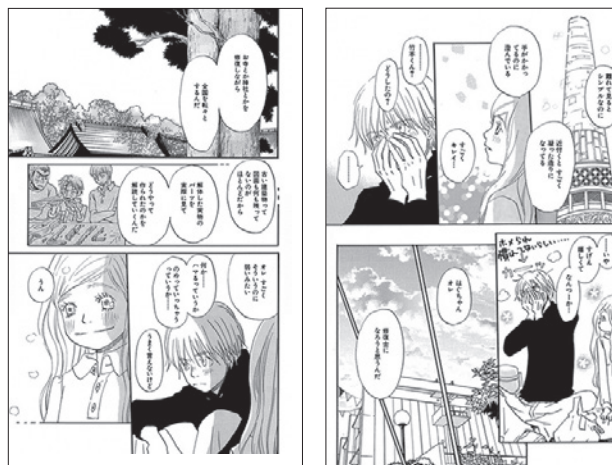
羽海野チカ／集英社

揺れ動く心理に共感し、自分を
重ね合わせながら読める

大学で美術を学ぶ学生たちが、挫折や嫉妬を味わいながらも、それぞれのやり方、タイミングで自分の道を見つけていくというストーリー。生徒が、数年後の自分の姿を思い描いたり、何かに真剣に打ち込む姿に憧れを抱いたりするきっかけになるかも。本を読むのはちょっと重たいという気分ときや、本を読むのが苦手だという生徒でも、漫画なら気軽に手に取れる。

赤土(本誌編集長)

舞台は美大。周りの圧倒的な強み・個性に触れ、主人公は自分が「からっぽだ」と感じてしまいます。しかし、もともと細やかな作業が得意な彼は、偶然出会った修復士という仕事に心を惹かれていきます。キャリアへのリアルな心理変化が、注目ポイントです。



卒業制作が完成したときのワンシーン。自分の中の虚無感と向き合い、もがき切った末に出会った修復士の仕事について、心のうちを自分の言葉で伝えようとする姿が描かれている。

©羽海野チカ／集英社



ふと自分の心がドキドキした方へ、 選んでいける自分であってほしい。

本特集は、インタビューで出会った一人の高校生の悩みがきっかけとなり、始まりました。

「将来について考えると、夜も眠れないほど不安。でも考えるほどに周りの声気が気になってしまって、それだったら早く決めてしまった方が楽かもと思った」

Z世代やデジタルネイティブ世代と大きく括られることも多いなかで、彼・彼女たちのもつ、根っこの深い悩みを聞いたと感じました。デジタル情報にアクセスできる以前と以後では、私たちに日々入ってくる情報量や、情報との関わり方が大きく異なっているはずです。自分自身も一人の生活者として、声が大きくな人や、正解らしき言葉にどうしても頼りたくなる気持ちも十分に理解ができます。実際に高校生たちからは、インフルエンサーと呼ばれる存在の話も多く聞こえてきます。一定の「正解」があった社会では、それで良かったのかもしれませんが。

ただ、これからの社会、変化が激しいということは、選択の回数が増えるかもしれないということ。多様性が広がるということは、選択できる範囲が増えていくかもしれないということ。

これからたくさんの方の大切な選択を繰り返していく世代だからこそ、日々の体験と共に自分に向き合う重要性が、より増していくのだと考えます。起こった出来事や出会った人、そこで感じたことを基に「自分のあり方」を考え続けていく。そして、ふと心がドキドキした瞬間に、そちらに向かって「選んでいける自分」であってほしい。本特集が、学校以外の側面も含め、先生方にとって、少しでもこれからの関わり方のヒントとなりましたら幸いです。

赤土豪一(本誌 編集長)

